

令和 6 年度 人間力総合演習の学び

至学館大学人間力開発センター

発行に寄せて

「人間力、60 時間もある…」

ある日、至学館大学近くの飲食店で他の教員とランチをしていたら、うちの学生2人が入店し、私達の近くの席に座りました。その時の学生の一言が嫌でも私の耳に入ってきてしまったのです。その学生達は、私がその店にいることは気づかず、1人が「あー人間力、面倒くさい!」と発していたのです。「ん!？」と思った私ですが「まあまあ、そんな学生もいるよなー」とちょっと残念な気持ちになって、店を出ました。私は「伝わらないんだ。伝えられないんだ。」と思いながら反省し、大学に戻りました。

振り返ると、私自身、人間力開発センター長を拝命し、2年が過ぎました。

1年目の令和5年度では「至学館大学は、人間力総合演習は至学館大学のディプロマポリシーである」ということを教員、部活動の指導者にも再認識してもらい、学生には木3の講義も演習と位置づけ「何のために行くのか」「どんな気づきがあったのか」という自己啓発につながるような内容を取り入れました。また、これまで一度も話をしたことがない他学科の学生と話をしたり、他の学生の取り組みを聞いて「そういうことをしている人がいるんだ」と知ったりすることができると、卒業後の自身の生き方についてヒントがあるのではないかと考えました。いわば、キャリア支援です。

2年目の今年度では「これまでは60時間もあると考え、消化しようとしてきたが足りない」「自分を変えたいなら、自分から動かなければ何も変わらない」という言葉を投げ掛けた学生の発表がありました。そして、こうした学生は、活動をきっかけにさらに進歩して自己の生き方を見つめたり、時間数関係なく、活動を深めたりしているようです。このように、少しずつですが、学生の中で変化が起きています。この「人間力総合演習の学び」には、こうした内容がまとめられていますので、是非、目を通していただきたいと思います。

「私達も学生の皆さんの根気強さや明るさが刺激になっています」「大学生の発想にびっくり」「次回も一緒に取り組んでもらいたい」など。活動に関わっている団体の方、共に運営をしている皆さんから、多くの嬉しい評価のお言葉をいただいています。

今後も、皆さんと対話をしながら講義を進め、そこで出会った学生同士で刺激し合いながら、自分自身を前に進めていくための活動に取り組むことができるよう、後押しをし続けていきたいと思います。

至学館大学人間力開発センター長 久林 直美

〈人間力開発センタースタッフからのメッセージ〉

学生の皆さんの多くは「必修だから」「単位のため」といったモチベーションからこの人間力総合演習をスタートさせているかもしれません。「そうだよね」と、多少気持ちも分かります。

しかし、日常から1歩踏み出し、地域の方や学科を超えた仲間と関わり、今までにない経験を重ねることで、次第に気持ちに変化が生まれた様子がみられます。チャレンジしたからこそ「意外とできた」「苦手が少し克服できた」「〇〇力が身に付いた」との実感が生まれています。懸命に取り組んだからこそ「達成感、やりがい、おもしろさ」を味わい、それがエネルギーとなり、60時間に達しても「活動を続けたい」との思いになる学生もいます。

変化が生まれるのはなぜか、それは「『やってみる』をやっている」からだと言え、皆さんの日誌や発表から伝わってきます。もちろん挑戦すれば、成功することもあり失敗することもあります。その瞬間は嫌な気持ちになるかもしれません。ですが、見方を変えたとき「あの失敗が今（成功）につながっているんだ」と気づくタイミングが来ます。ぜひ人間力総合演習を活用して自分のキャリアにつなげてほしいと思います。

やっぱり「やってみる」ができない、苦手、心配だと思ってしまう皆さんもいるかもしれません。そのようなときは1人で抱え込む必要はありません。人間力開発センターが力になります。一緒にチャレンジしていきましょう。

佐藤 匠

人間力総合演習は、様々な地域や職業の方と関わっていくことで、多くの学びを得られるとても貴重な授業だと思います。正直私も、学生時代にこういった経験を積んでから社会に出られたら良かったなと思います。「活動が面倒くさい」「1人では勇気が出ない」と思っている人は少なくないですよね。それでも、ここに載っている発表者の皆さんのように少しでも勇気を出して挑戦してみたいです。

「意外と楽しいな」と感じたり、関心を持てることが増えたりするかもしれません。時には悩んだり、続けることが難しいと感じることもあると思いますが、その経験や感じたことも含めて、きっと自分の力になるはずです。活動を通じて皆さんの人間力を高められるよう、お手伝いできたら嬉しいです。

大矢 あずさ

目 次

現代教養科目「人間力総合演習」	p.2
ねらい	p.2
人間力総合演習「講義」	p.2
講義の実施	p.2
令和6年度の講義のカリキュラム	p.3
講義中でのコーチング演習（1年生）	p.3
講義中でのコーチング演習（2年生）	p.4
人間力開発センター企画としてのコーチング演習	p.4
全体発表	p.5
演習の成果	p.53
活動企画一覧	p.54
人間力開発センターの紹介	

現代教養科目「人間力総合演習」

▶ ねらい

本学の教育理念「人間力の形成」を実現するための軸となる授業科目であり「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」をねらいとする。本授業科目は単にボランティア活動の実施を推奨しているのではなく、必ず自分の考えを持ち、自分で課題克服など目標を設定し、取り組むといった主体的な行動（実践）を求めている。学生は、自身の目標達成、課題克服をめざし、講義、演習（人間力開発センター企画、教員企画、自己企画）に取り組む。



人間力総合演習「講義」

▶ 講義の実施

本授業科目のねらいである「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」を学生に対し十分に伝え定着を図るため、令和5年度より新たに「講義」を設定し展開してきた。講義は、自己理解からはじめ、コーチングの手法を活用し、目標設定や振り返りのスキルを身に付けるプログラムとしたとともに、人間力総合演習の手続きを含む進め方を繰り返し伝えた。これらの取り組みにより学生の演習に取り組むモチベーションを高め、主体的な行動（実践）を起こしやすくなるようサポートしている。

また、毎回の講義の進行においては、学科を超えた学生同士の関わりが生まれ多様な考え方に触れられるよう学科混合となるようクラス分けや座席配置を行っている。さらに意見・感想や自身の取り組みを互いに発表し合うなど対話形式を取り入れている。

令和6年度に実施した履修学生を対象としたアンケート調査（回答数 1,037 件）では、「人間力総合演習に取り組むにあたり講義は役に立ちましたか」との設問に対し、4段階評価（4 とても役に立った 3役に立った 2あまり役に立っていない 1役に立っていない）で平均値 3.04 であった。また、その理由として「講義や発表を聞いて行動を起こすきっかけとなったから」「視野が広がったから」「自己理解につながったから」「就活へのつながりを理解したから」「演習の手続きが分かったから」等の回答がみられた。このことから、講義にはねらいに沿った一定の効果が生じていることが確認できた。



講義の様子

令和6年度の講義のカリキュラム

1年生

	第1回	第2回	第3回	第4回
講義内容	・オリエンテーション ・「自分を知ろう」 ・「人間力100」 ・演習計画	外部講師による コーチング演習	・実施した活動の共有 ・グループ内発表	・全体発表、質疑応答 ・次への目標設定

2年生

	第1回	第2回	第3回
講義内容	・オリエンテーション ・目標設定 ・演習計画	外部講師による コーチング演習	・全体発表、質疑応答 ・次への目標設定

3・4年生

	第1回	第2回
講義内容	・オリエンテーション ・目標設定 ・演習計画	・全体発表、質疑応答 ・次への目標設定

▶ 講義の中でのコーチング演習（1年生）

人間力開発センターでは「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」を実現するために、人の主体的な行動を引き出し目標達成や課題克服のサポートを目的とするコーチングの考え方および手法が活用できるとの考えに基づき講義、演習を組み立てている。また、学生がコーチングスキルを習得・向上することは、「聞く、質問、承認」といったコミュニケーションスキルの習得・向上に結び付く。コーチングを活用することは、対話形式の講義をより有意義なものとし、演習における多様な人々との関わりを促進させることにつながる。

このような背景のもと、令和5年度より1年生を対象とした講義でコーチング入門演習を開講しており、令和6年度も引き続き開講した。講師にはプロコーチとして活躍する稲垣 友仁 氏（共創コーチング株式会社 代表取締役）を迎え、学生はコーチングについて学びを深めた。

演習では、コーチングフローやセルフコーチングのプロセスを学び、コーチングの基本スキルである「聞く、質問、承認」を意識した実践を展開した。

人が行動を起こすためには、自身のビジョン（将来）を描き、適切な目標を設定することが重要となる。1年生の2回目の講義では「大学時代に挑戦したいこと」「大学時代に身に付けたいこと」「将来就きたい仕事」「将来、挑戦したいこと、達成したい



稲垣氏による演習の様子

こと」を通じてビジョンを膨らませ実現のための目標設定を行った。後半は、2人1組となり交互に内容を共有し質問やフィードバックを行い、考えを深め気づきを促す内容とした。

稲垣氏からは、成長し続ける人の特長として、① 目標を持ってチャレンジしている（ストレッチ）、② 振り返りを実践している（リフレクション）、③ 目的意識を持って取り組んでいる（エンジョイメント）ことが挙げられるとのまとめを頂いた。このコーチング演習での学びが、人間力総合演習に取り組む動機付けを高め、活動における学生自身の目標設定に基づく主体的な実践につながっていく。

▶ 講義の中でのコーチング演習（2年生）

2年生では、自分自身を成長させる力をより促進させることを目的にリフレクション（振り返り）をテーマに稲垣氏による演習を行った。稲垣氏の講義からリフレクションの重要性、方法を学んだ後、2年生1回目の講義（6月頃）で設定した自身の目標に対する達成度合い、現時点までの取り組みの進み度合いについてワークシートに沿って振り返った。そのうえで、振り返りを行っての気づきを次にどう活かしていくかをまとめ、これからの実践につなげた。

▶ 人間力開発センター企画としてのコーチング演習

通常の講義は入門との位置づけであることから、よりコーチングの考え方を学び実践できる力を養うための充実した機会が必要と考え、稲垣氏による特別演習を8月に設定した（人間力開発センター企画）。1日3時間、連続2日間のプログラムとし全学生を対象に参加募集を行った結果、20人の参加を得た。

参加した学生の動機をみると、「通常講義でコーチングについて知り興味を持った」「将来教員やトレーナーをめざしており必要な力だと思ったため」などの理由が挙げられていた。

特別演習では、コーチングの基本スキルである「聞く、質問、承認、提案、フィードバック」を稲垣氏から詳説いただいた後、学生はグループになり実践練習を繰り返した。参加した学生のレポートからは、ティーチングと比較することでよりコーチングについて理解が深まった様子や将来、教員や指導者になるうえで身に付けたいスキルであるとの考えが強まった様子、具体的なスキルを学ぶことで人との向き合い方、コミュニケーションのあり方を見直すきっかけになった様子がみられた。



演習の様子

全体発表

各学年の最終講義は、1クラス約3組の学生による全体発表を行った。令和6年度は総勢29名の学生が登壇し、1人約15分程、企画に参加した動機、活動内容、主体的に取り組んだ点や経験の活かし方等を発表した。発表学生と発表内容を紹介する。

	学科	氏名	内容	企画種別	頁
1学年	体育科学科	野呂 奏太	下呂・馬瀬ワークキャンプ	人間力開発センター企画	7
	栄養科学科	鈴木 琴子	奥三河 PR 動画制作活動	人間力開発センター企画	8
	栄養科学科	日高 寿音	奥三河 PR 動画制作活動	人間力開発センター企画	9

	学科	氏名	内容	企画種別	頁
2学年	健康スポーツ科学科	大西 菜々子	CAMPUS COLLECTION 2024 NAGOYA 企画・運営スタッフ活動	自己企画	10
	健康スポーツ科学科	島津 優真	大府市子ども食堂運営スタッフ活動	自己企画	12
	栄養科学科	飯田 千空	フィリピンでのワークキャンプ	自己企画	14
	栄養科学科	大塚 若菜	CURIOUS（全世代型サロン）での運営スタッフ活動	自己企画	16
	栄養科学科	山本 帆夏	大府夏まつり子ども向けブース運営活動	人間力開発センター企画	17
	こども健康・教育学科	森重 敬太	児童センターでの子どもを対象とした活動	自己企画	19

	学科	氏名	内容	企画種別	頁
3学年	健康スポーツ科学科	五十嵐 大洋	消防署でのインターンシップ	自己企画	21
	健康スポーツ科学科	池原 妃咲	二ツ池セレクトナ清掃活動	自己企画	23
	健康スポーツ科学科	石原 凜香	二ツ池セレクトナ清掃活動	自己企画	24
	健康スポーツ科学科	河合 風南	カンボジアの孤児院での活動	自己企画	25
	健康スポーツ科学科	齋藤 未来	カンボジアの孤児院での活動	自己企画	25
	健康スポーツ科学科	佐原 早耶香	大府市ミュージックフェス等運営活動	人間力開発センター企画	28

	学科	氏名	内容	企画種別	頁
3 学年	健康スポーツ科学科	辻 蒼葉	大府東浦花火大会運営スタッフ活動	人間力開発センター企画	30
	健康スポーツ科学科	野々垣 希望	大府東浦花火大会運営スタッフ活動	人間力開発センター企画	33
	健康スポーツ科学科	松田 乃映	市民映画づくりスタッフ活動	人間力開発センター企画	35
	体育科学科	神谷 星磨	大浜燃料地域向けイベント運営活動	人間力開発センター企画	37
	体育科学科	伊藤 壮吾	大浜燃料地域向けイベント運営活動	人間力開発センター企画	37
	体育科学科	鵜飼 樹	神田公民館まつり子ども向けブース運営活動	人間力開発センター企画	39
	体育科学科	野々山 葵	大府夏まつり子ども向けブース運営活動	人間力開発センター企画	40
	体育科学科	野原 大希	大府イルミネーション企画・製作活動	自己企画	42
	栄養科学科	大石 佳奈	下呂・馬瀬ワークキャンプ	人間力開発センター企画	43
	栄養科学科	村上 佳穂	市民映画づくりスタッフ活動	人間力開発センター企画	45
	こども健康・教育学科	寺岡 雅虎	チャレンジクラブ（児童センター）での講師活動	自己企画	47

	学科	氏名	内容	企画種別	頁
4 学年	健康スポーツ科学科	井田 明香梨	福祉施設でのインターンシップ活動	人間力開発センター企画	49
	健康スポーツ科学科	草尾 友一	小学生等の居場所づくり活動	人間力開発センター企画	51
	健康スポーツ科学科	名村 拓真	大府東浦花火大会運営スタッフ活動	人間力開発センター企画	52



野呂 奏太さん

体育科学科
1年

下呂・馬瀬
ワークキャンプ

1 この企画に参加した理由

私は、夏休みに岐阜県下呂市の馬瀬で行われたワークキャンプに参加しました。

この企画に参加した理由は2つあります。1つは、企画書を見て、幼いころに参加したことのあるワークキャンプというワードが書いてあり、自然に触れながら地域の人と関わることが面白そうだったからです。もう1つは、社会に出た後にしっかりとコミュニケーションを取れるようになるために様々な人から話を聞いて傾聴力をつけたいと思ったからです。

2 企画の内容

この活動は、岐阜県下呂市馬瀬という自然に囲まれる地域でトマト農家での農業体験、草刈り体験、地域交流、自然体験を行い、自分の将来・キャリアを見つめ直すことを目的としています。3泊4日、私を含め8名の学生が参加し、協力して自炊をするなど共同生活を送りました。

3 主体的に取り組むことができたこと

自分から話を聞きに行くことです。傾聴力を高めるためには、受動的に話を聞くのではなく、能動的に話を聞く必要があるのではないかと思います。一緒に参加した3年生の先輩や社会人サポーターのさんちゃん、宿舎の家主の中川さんに対し、自分から、どういう思いがあって今の夢を持っているのかなどの他の人の人生について質問をしながら様々な話を聞きに行きました。これができたので、今回の自分

の活動の目標である傾聴力をつけたいということを達成できたと思います。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通じて、自分の中で今後の人生への価値観が変わったように感じました。以前までは、将来を考えると、自分はこうなっていくのだろうなといったように固定化された考えでしかいられなかったのですが、様々な人から人生経験を聞いてみると、自分も今までの固定化された考えの生き方だけでなく、もっと色々なことを調べてみると多くの進む道があるんだろうなと思うようになりました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今後はまた来年この企画に参加したり、他の企画にも参加してみて、統率力であったり、主体性を持つなどの人間力を身に付けて、どんな生き方でもやっていけるようにしていきたいと考えています。



1 この企画に参加した理由

私は元々友達に誘われてこの企画を見つけました。奥三河にゆかりがあるわけでもなかったのですが、友達から奥三河についてたくさん聞いたところとても魅力的な場所だと感じました。実際に訪れた際に私自身が奥三河の魅力を知るとともに、初めて訪れてわかった感覚や景色をまだ知らない方々にお見せしたいと思いました。

また、この企画を通して、2つの力を身に付けたいと考えました。1つめはコミュニケーション能力です。私は自分が知らない環境で新しい方達とコミュニケーションをとることがあまり得意ではないので、この機会を通して出身や年齢、性別などの違う様々な方々と関わりたいと思いました。2つめは探求力です。実際に奥三河を訪れる際や動画を作る際など多くの問題と向き合うことが必要になるため、自分自身で試行錯誤しながら解決に導けるようにしていきたいと考えました。

2 企画の内容

この活動は、奥三河地域の魅力を発信して交流人口増加や地域力の向上を目的に行われ、愛知県行政及び奥三河観光協議会と連携して実施しました。私達は、実際に奥三河に行き、撮影やインタビューを行い、地域の方と交流した後動画を作成しました。活動を通じて発想力や企画を作る力、コミュニケーション能力を成長させることができました。

3 主体的に取り組むことができたこと

動画をどんなものにしたいか積極的に意見を言えたことです。私は自分から意見を言うことは得意ではなく、ほとんど誰かの意見に合わせていました。ですが今回の企画に携わる学生が私を含め2人で、意見を言わないと何も進まない状況でした。最初は意見を言うことでどう受け止められるかが不安でしたが、いざ言ってみるとたくさんのアイデアが浮かんで自分の中でももっと欲張っていろいろなことを動画に取り入れたいと思い、積極的に意見を言うことができました。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通して学んだことは人と多く関わることの重要性です。今回実際に奥三河を訪れてみて、奥三河に住む方や働かれている方などお話をさせていただく機会が多くありました。生の声を聴くことができ、自分の見方とはまた違った見方を教えてくださり視野をより広げて物事を見ることができました。そのため、多くの人と関わり物事を客観的に見る重要性を学びました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私は自己企画を通して自己形成力を身に付けたいと考えています。

これまでの企画は主催がいてそれに参加させていただくという形だったので、今後行う自己企画では自分が中心となって、誰かに引っ張ってもらのではなく、誰かを引っ張れるような存在になりたいです。また、これまでの企画で得たコミュニケーション能力などを最大限に活用して取り組みたいです。



日高 寿音さん

**栄養科学科
1年**

**奥三河 PR 動画制作
活動**

1 この企画に参加した理由

私がこの企画に参加した理由は 2 つあります。1 つめは人とかかわる企画に参加してコミュニケーション力を向上させたかったからです。私は自分から話しかける際に緊張してしまいコミュニケーションをとることがあまり得意ではないのでこの機会に成長できればと思いました。2 つめは将来の自分に活かすことができると考えたからです。私は将来、管理栄養士として就職したいと考えています。もし、それができたときにホームページや PR 動画を作るということが可能であれば、自分の仕事の幅を広げられると考えたためこの企画に参加しようと決めました。

2 企画の内容

この活動は、奥三河地域の魅力を発信して交流人口増加や地域力の向上を目的に行われ、愛知県行政及び奥三河観光協議会と連携して実施しました。この企画は私達が実際に奥三河に行き、撮影をしたりインタビューなどで地域の方と交流したりした後に動画を作成し奥三河の魅力を伝えるという企画です。この企画では、発想力や企画を作る力、コミュニケーション力を成長させることができました。

3 主体的に取り組むことができたこと

自分が気になったことを同行してくださった県職員の方に積極的に質問できたことです。例えば、新城市の山の中に今はもう使われていない駅があるのですが、実際に見た際は私はホームしか当時の雰囲気はわかりませんでし

た。質問をしたことで、実は地面にある石は自然にある石ではなく線路の下に敷いてある「バラスト」であることが分かり、動画にもこの情報を盛り込むことができました。この活動をした目的は、動画により多くの奥三河の魅力を入れるためでしたが、この行動をしたことでたくさんコミュニケーションをとることにつながったと思っています。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通して学んだことはコミュニケーションと積極性の大切さです。理由は先ほどの主体的に活動できたことと少し重なりますが、質問をしていなかったらもしかしたらこの情報は知らなかったということまで知ることができたと感じたからです。また実際に積極的に参加しようと心がけてみて自分が思っていたよりも人と話すことは楽しいということにも気づくことができました。これまで緊張してしまって自分から話せずにいたことも多かったですが、同行いただいた方ではない地域の方とも交流を通して奥三河の歴史を学ぶことができたので積極的に行動することは大事だと思いました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今回の活動でコミュニケーションが大事であることはもちろん、積極性も人と関わるうえでとても大事なことだと分かりました。しかしまだ緊張しなくなったわけではないです。また、自分から積極的に話しかけることはまだまだ自分の中で課題ではあるので、人と関わる活動や、人と協力して何かを作り上げたり、盛り上げたりするような企画に参加していき、人間力総合演習の時間でより成長できるように努力していきたいと思います。



大西 菜々子さん

健康スポーツ科学科
2年

CAMPUS
COLLECTION 2024
NAGOYA 企画・運営
スタッフ活動

1 この企画を考案した理由

インスタグラムのメッセージにスタッフ募集の連絡が届き詳細を読んだ時にイベントの企画・運営をする機会はめったにないということや将来を考えてコミュニケーション能力、行動力など人間的に成長したいと考えたためです。この活動は人間力総合演習の自己企画になると思い、やってみようかなと思い挑戦しました。

2 企画の内容

このイベントは、2007年に関西でスタートした「学外総合文化祭」イベントです。大学生が企画・運営の中心を担い、また出演者となってファッション・ダンス・アート・音楽など様々な文化をミックスしたエンターテインメントショーを開催します。海外合わせて15都市で開催しており、それぞれの都市でビジョンを決め行動していました。名古屋のビジョンは「DIVE」で、になりたい自分や夢に向かってがむしゃらに前進して自分の未来に飛び込もうという目標を掲げて行っていました。

活動としては、週に1回の頻度で会議を行って、どうしたらイベントに人を集められるかを考えたり、出演者のスケジュール組みや場所の確保などをしたりしてイベントをより良いものにするために準備しました。予定されている会議時間が終わっても、公園で話し合いをしたり、夜遅くまでオンライン会議などを重ねて活動しました。

3 主体的に取り組むことができたこと / 気づき、学び

この企画で1番意識して取り組んだことは「自分の意見を伝える」ことです。私は元々、意見を否定されたり、意見がズレて喧嘩になることが怖いと思い、周りに合わせる経験が沢山ありました。しかし、この活動のスタッフは、週に1回しか会えなく短い時間しかないからこそ、たくさん自分の意見を言っていました。その姿を見ていて自分もいいイベントにしていきたいという気持ちが強くなっていきました。「いいイベントにするためにもちゃんと思ってることを伝えよう」と意識が変わりました。

良かったことばかりではありませんでした。自分の意見を伝えることで、スタッフとたくさんすれ違ったりぶつかったりして本当に辛い時もありました。しかし、自分の意見がきっかけでいい方向に動いた時やみんなが賛同してくれた時もあり、それが嬉しく感じ、続けることができました。きちんと自分の気持ちを伝えられるようになってからは、より皆との距離も縮まったように感じ自分の気持ちを伝えることは相手との距離を縮められる大事なコミュニケーションだと学びました。

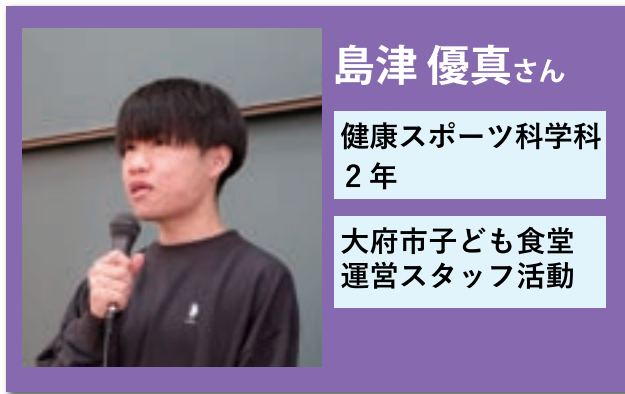
もう1つ、この企画を通して気づいたことがあります。それは、「とりあえずやってみるという精神が大切」だということです。

私は活動の途中から参加したので、分からないこともたくさんありました。でも、周りは待つはくれません。どんどん企画の話が進んでいく状況で自分から行動しないと話に入っていけませんでした。分からないからやらないとか言われてないからやらないは子どもだなと思い、自分から率先して行動しはじめました。この考えと行動から、「失敗したらまたやり直せばいいし成功したら自信や次の行動にもつながる」との気づきがありました。そして、最初の1歩踏み出すことの大きさが分かりました。

とは言っても1歩踏み出す最初が1番難し

いと思っています。その思考になってしまう人は、以前の私と同じであったように、先のことを考えすぎてしまって「失敗したらどうしよう」などネガティブな考えで埋め尽くされてしまうからだと思います。もっと気楽に構え、「間違えても大丈夫」くらいの軽い気持ちで挑戦していくとそれが習慣化されて自然とできるようになり、行動力があがると考えます。

このイベントは毎年開催され、何度もスタッフとして参加するとより重要な役割を任されていきます。統率力などを伸ばしていけると思うのでまたチャレンジしたいと考えています。とても自分の時間を使うし、大変な部分もあります。ですが、真剣に取り組んでイベントを成功させた後の達成感はとても大きいです。時間に余裕のある1年生にはこのイベントや自分が関心がある企画にぜひ積極的に挑戦して欲しいと思っています。



島津 優真さん

健康スポーツ科学科
2年

大府市子ども食堂
運営スタッフ活動

1 この企画を考案した理由

コミュニケーション能力と行動力の2つを身に付けたいと思いこの企画を考案しました。この2つの能力を高めようと思ったきっかけは、高校の時の部活や日々行っているバイトです。

私は部活やバイトで人とコミュニケーションをとることが苦手でした。試合後のミーティングで思っていることを共有できなかったり、バイトでもお客さんの目を見て話せなかったりしていました。また、部活でもバイトでも顧問や店長に言われたことしかできておらず常に受け身の状態でした。こうした自分が嫌だったし変わらなければいけないと思っていたので、レベルの低かったコミュニケーション力と行動力を高めるために積極的に自己企画にチャレンジしようと思いました。

2 企画の内容 / 主体的に取り組むことができたこと

私はもともと人間力開発センター企画で「大府ふれあい食堂」という企画に参加していました。この食堂には地域の子供達や保護者の方が参加しています。子ども食堂はスタッフの方々が子ども達にレシピを提示し、子ども達に料理の仕方を指導し料理の楽しさを知ってもらうことが目的で行われています。また、その料理を食べた後にちょっとしたレクリエーションを行っています。私は今回の自己企画で料理の内容からレクリエーションの内容まですべて考えそれを実際に行うことをしました。

私は「コミュニケーション能力」と「行動力」を高めるために、考えた料理やレクリエーションについてスタッフの方と打合せを行いました。そこで私は自分の持っている案を積極的に提示し、コミュニケーションを取ることを意識しました。また実際に活動を行っている時も気になったことがあれば自らコミュニケーションを取りに行ったり、気づいたことややらなければいけないことなどを見つけたらすぐに行動するということを常に意識して行動していました。

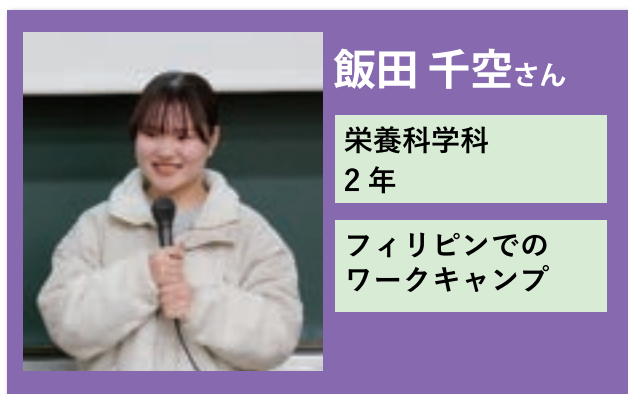
3 気づき、学び、達成感

この企画を通して、今まで発揮できていなかった力がまだ自分の中にあるということに気づきました。今まで生活してきた中で、コミュニケーションをとることが苦手と思い込んでしまいコミュニケーションを取る場面から避けたりしていました。行動力に関しても同じで、思っても勇気が出ずにためらい行動できないことがよくありました。しかし、今回の取り組みでこの2つの力を高めよう意識して行ったことによって、自然とできるようになり、すぐに行動することができるようになりました。できないと思っていたことが自然とできるようになったことによってまだまだ成長できることがあるのではないかと気づくことができました。

4 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

この活動を通してまだまだ高めていきたい人間力が見つかりました。例えば「観察力」や「適応力」などです。子ども達の人数が多いので1人ひとりの行動を把握することが難しく偏った子にしか対応ができませんでした。また、活動中に想定外のことが起こってしまったり、難しい要求をされたときに戸惑ってしまいうまく対応できないことがありました。このようにできないことは意識して改善しようとすれば身に付いていくことがわかったの

で積極的に身に付けていきたいと思いました。
この子ども食堂はいろいろな人がいていろいろな話を聞けたり良い刺激をもらえたりできます。そのため、今後も子ども食堂で活動をしていき自分が成長できるようにしていきたいです。



1 この企画を考案した理由

愛媛の実家では、私が小学生の時から、毎年ホームステイで外国の方を受け入れていました。そのため海外に興味があり、いつか私も海外に行ってみたいと思っていました。また、愛知に来てから、大学とバイトの人しか関わる機会がなく、コミュニティの幅を広げたいと思っていました。ですが、私は人見知りや周囲の目を気にしすぎてしまう性格から、初めての場がすごく苦手です。家族や、友達には、そんなことないとよく言われるのですが、私自身は感じていて、1歩踏み出す勇気がありませんでした。そこで、今回は観光ではなく、フィリピンのワークキャンプで初対面の人と関わることでコミュニケーション能力を高めたり、経験したことのない環境に踏み込む行動力を身に付けたりすることで、現地の生活を知り、自身の生活に活かせることを見つきたいと思い、この企画を考案しました。

2 企画内容の説明

次の日程で活動を行いました。

8/12 事務局に集合し、バスで4、5時間かけてキャンプ地に到着 / 市長に挨拶 / 宿泊地到着
 8/13 自分達がお世話する畑の見学・畑仕事 / 集会所のようところで地域の子ども達とバスケットボール / 後日訪れる小学校や地域の子ども達のために折り紙
 8/14 集会所でフィリピンの台風の被害や気候変動についての講義 Alegrea の地域を知るためにドライブ / 夜・フィリピンと日本の違い

を英語でディスカッション

8/15 畑仕事 / Alegrea の地域を知るためにドライブ地域の家族とバレーボール・家訪問

8/16 畑仕事 / 小学校訪問 / 集会所でパーティー

8/17 解散

3 主体的に取り組むことができたこと

まず準備の段階からの1つひとつです。飛行機チケットの手配、パスポートや海外Wi-Fiの設定などどれも初めてのことで、渡航前からチャレンジの連続でした。現地では、地元の人達や日本からのボランティア仲間との「交流」です。特に、地元の家族や子ども達とバレーボールやバスケットをした時、私は英語に自信がなかった分、プレーを褒め合ったり、ハイタッチやリアクションをしたりすることと、日本人の仲間達とも積極的にコミュニケーションを取ることを心がけました。そうするうちに、いろいろな人と仲良くなっていき、写真も撮り合い、スポーツは言葉を越えた交流ができ、世界共通のものだ、と感じました。また、フィリピンでの出会いを大切にしていたので、笑顔を絶やさないことも心がけていました。地元の人達が集まってダンスパーティーがあった時、私はダンスが苦手ですが、その場のノリと楽しい雰囲気になれて、知らないうちにとっても楽しく踊っていて、みんなで沢山笑い合い、さらに仲を深めることができました。

他には、本学で栄養学を学んでいるからこそ、私にできることを見つけて行動できたことです。毎食、フィリピン人のボランティアリーダーが私達の食事を作ってくれていましたが、時間が経つにつれて日本人の仲間達は日本食が恋しくなっていました。ある日の夜、私は食材が置いてあるのを見て、オムライスが作れそうと思いました。そこで、リーダーに「今日は私がご飯を振る舞ってもいい？」と尋ね、みんなの分を作りました。限られた食材の中で、日本で作るものとはまた違う味でしたが、みんなに美味しいと言ってもらうことができ、行動に移して良かったと思いました。

4 気づき、学び、達成感

現地の生活を送る中で、虫の多さに正直驚きましたが、虫嫌いの私がほとんど気にせずに過ごせていました。ただ、トイレとシャワーの環境だけは、最後まで慣れることはできませんでした。日常と異なる環境を経験したことで、ものの見方や考え方が変わったと感じています。一度外の世界を見て知ったからこそ、日本での今の生活が出来ている当たり前前の生活に感謝の気持ちが芽生えたと感じます。また、私が地元の人や日本のボランティア仲間と仲を深めることができたのは、みんなが明るく気さくに声を掛けてくれて、一緒に笑い楽しむことができたからだと思います。人見知りの私でも、気がつかないうちに自分から積極的に交流できていることに驚きました。

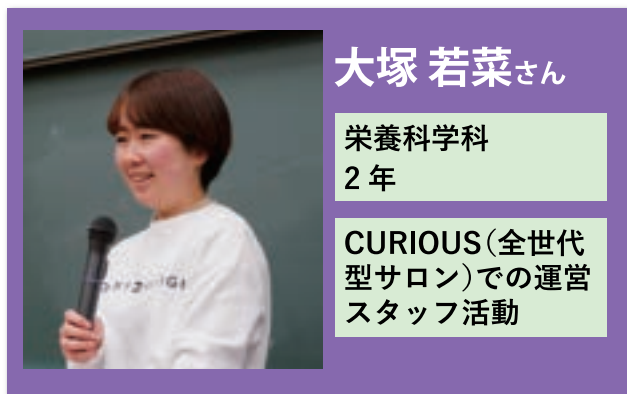
そんな中、私は最終日の前の夜、体調を崩してしまいました。その時に、地元の人がキャンプの拠点までバイクで運んでくれたり、日本人の仲間達が薬を分けてくれたりしました。あの時は、本当にしんどくて日本に帰れるのかと不安だったのですが、キャンプ期間を通して、皆と仲が深まっていたから助けてもらえたのかなと思います。皆の優しさが心に沁みました。積極的に人と関わることで、助け合いの気持ちが生まれるのだと感じ、日ごろからの人間関係が、いざという時の助けとなるため、これからの生活においても周りの人達とのコミュニケーションを積極的に取りたいと思いました。また、今までに出会った人、これから出会う人ともに人と関わることを大切にし、今回の活動でいろいろな方に助けられた分、私も誰かの役に立つことをしていきたいです。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

食事の面に関しても、朝作った昼ご飯を冷蔵庫に保管せずに暑い部屋の中に放置していたものを食べていました。こういった衛生面

がよくなかったから、私以外にもメンバーの半分くらいが体調不良になってしまったのかなと思います。大学で学んでいる栄養学、衛生面などさらに学びを深めて、何年後かにまたフィリピンを訪れ、食事に関する教育ができればいいなと思いました。

また、日本以外の国を知ったことで、日本の国の良さを感じ、こうして教育を受けられていることも、おいしい食事ができていることも当たり前ではないと気づくきっかけとなりました。また、帰国し半年ぶりに家族にあつたら、前以上に明るくなって、考え方も変わったと言ってもらえました。自分を自分でセーブしなかったことが、自分自身の成長につながったと思ったので、今回得た行動力を無駄にせずに、やってみたい挑戦したいという気持ちが少しでも芽生えたときに躊躇せずに行動していきたいと思います。国問わず人のつながりを大切にし、コミュニケーションの力もさらに高めていく中で、誰かの役に立てるためにも周りを見られる力も身に付けていきたいです。



大塚 若菜さん

栄養科学科
2年

CURIOUS(全世代
型サロン)での運営
スタッフ活動

1 この企画を考案した理由

この自己企画をやるまでは、人間力開発センター企画にしか参加したことがなく常にサポートをするなどの内容ばかりで自主的に動く企画内容ではありませんでした。そのため、自己企画を通して自分の欠点である人見知りやコミュニケーション能力がない部分をどうにかできないか、自分のやりたいことであった子どもを相手にした企画と結びつけながら計画をしていきました。

2 企画の内容

私は、大府市で毎月最終週の日曜日に開かれている全世代型サロン CURIOUS という団体に活動しました。キュリオスとは「好奇心いっぱい」という意味で、大人も子どもも挑戦したい、地域を子育てを楽しくしたいを形にすることを目標として行われています。大人も子どもも大府市内の1つの居場所として利用してほしいという思いが詰まっています。

3 主体的に取り組むことができたこと / 気づき、学び、達成感

最初の企画はひなまつりの企画でおりがみを使って自分だけのオリジナルのおひな様を作ろうという企画をしました。この企画は子ども中心に考えていたためおじいちゃんやおばあちゃんが来た時に退屈していた点と幼児や低学年の子には難しい部分があった点が反省点でした。正直様々な年代の方がくる中でどう接していいのか、子どもにはどこまで教えればいいのかと分からないことばかり

で、心が折れそうになりました。

しかし、団体の代表の方から「今日は本当にありがとう」「次の企画も楽しみにしているね!」と言われ、成功、失敗ではなくてやってみることが大事なのかなと気づきました。そして、反省点を踏まえて3回目くらいの企画で行った「手形アートで作ろうみんなの水族館」を1番主体的に取り組みました。準備はもちろん、子ども達の間で色のけんかが起こらないようにすることやその後の企画にも支障が出ないような時間配分に気をつけるなど、自己企画を重ねて行ったことで、様々な部分に配慮できるようになりました。子ども達が自由に、楽しそうに笑顔で一緒のものを作る姿がとても印象に残っています。出来上がった作品は水族館とはかけ離れたものでしたが、子どもの想像力と迫力さは私たちにはない部分でこの自己企画をやるようになって「なんでも挑戦してみることが大事なんだな」ということに気がつきました。

私は心配性で、始まる前はとても不安で「できるのかな」とか、「思い通りにいくかな」「失敗したらどうしよう」など考えてしまいますが、失敗してもどうにかなる時に失敗して、学ぼうという姿勢に変化しました。そして、今は遊ぶ企画や調理の補助などをやっていますが、今大学で学んでいる栄養面などで子どもや親のサポートとして情報を提供できる活動をしていきたいと考えています。

自己企画となるとすごいことをしないといけないと思いがちですが、自分の生活の中からつながげてみることで案外すごい良い企画につながったりします。軽い気持ちで取り組むのは相手にも失礼ですが、自分の「やってみたい」「挑戦したい」という気持ちを大切にしていって、皆さんも頑張ってください。



1 この企画に参加した理由

私は今まで参加する側だったお祭りを運営側として参加するのは楽しそうという好奇心と、人間力の活動時間を一気に稼げるという安易な考えから大府夏まつりの企画に参加することを決めました。ですが、自分自身、はじめましての人と話すときや、人前で話すときにコミュニケーション力が欠けていると感じたり、地域のボランティアや学校の行事などみんなでなにかをしようとするときに誰かがやってくれるだろうという当事者力に欠けている部分があると感じることが多かったため、大人の方々と関わりながら、自分達で考え企画・運営することが出来る点で成長できるのではないかと思い企画から行う企画スタッフとして参加することにしました。

2 企画の内容

この大府夏まつりは毎年大府駅で開催される夏祭りで、大府商工会議所青年部の方々と共に子ども向けブースをはじめ各種ブースの準備・運営を行います。1か月に2、3回程度学生のみで集まり、子ども向けブースの内容や、レイアウト、ルールなどを決めていきました。また、夏休みでも集まり、子ども達が楽しんでもらえるように試行錯誤を重ねていきました。さらに、当日スタッフの学生を行う事前オリエンテーションの資料について話し合ったり、会場のレイアウト、人員の配置などについても考えたりしました。打ち合わせの中で、青年部の方とも一緒に話し合い、夜ご飯にピザパーティーを開催するなど楽し

く活動していきました。

3 主体的に取り組むことができたこと

子ども向けブースの準備・運営が1番主体的に取り組むことが出来ました。来てくれた子ども達にどうやったら楽しんでもらえるのか、問題が起こらずにやっていけるか、様々なことを考えながら、内容を考え、準備・運営をしていくのは初めての経験で、来てくれた人の立場やコスト、場所の広さなど細かいところまで考えていくことがすごく難しかったです。また、より良いものになるように学生同士、青年部の方と意見交換する際、受け身にならず自分から意見を発信する意識を持ちながら取り組むことが出来ました。お祭り当日は当日スタッフの学生に手伝ってもらったことが多かったため、自分達が考えた子ども向けブースの内容の説明や当日スタッフの休憩の回し方など企画・運営以外の部分を考えるのも難しかったです。

4 気づき、学び、達成感

私は、自分からなにか発言することは得意な方ではありませんでした。ですが、この企画を通して受け身にならず、自分から発言できるようになりました。発言しやすい雰囲気だったのはもちろん、自分で1回の打ち合わせで3回は自分から発言するという目標をたて、目標を達成できるように頑張りました。そのおかげで自分から発言することに対する抵抗がなくなり、受け身にならず自分から発言をしてみんなでより良いものを作っていくことができました。また、大府商工会議所の方々と関わる機会も多く、大人の方との接し方や学科、学年が違う学生との関係の作り方などについても学ぶことが出来ました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

活動時間数はもう終わってしまいましたが、

自分はまだコミュニケーション力や、自分事として考える当事者力などを高められていないように感じます。なので、自主的に地域のボランティアに参加したり、人間力総合演習の企画にも参加したりしていきたいです。今までは 60 時間をただただ終わらせるためにボランティアをしていましたが、この企画を通して得られたものが多く、自分自身の成長のためにボランティアを今後はやっていきたいと思うようになりました。これからは自分に足りない力をつけられるようにさまざまなボランティア活動に参加していきたいです。



森重 敬太さん

こども健康・教育学科
2年

児童センターでの
子どもを対象とした
活動

1 この企画を考案した理由

私は今年の3月に「ふれあいボランティア」と題した自己企画を自分の地元の児童センターで行いました。この企画を考案した理由は、コミュニケーションといった人と会話する力や、自分で考えて行動する力を身に付けるためです。これらの力を身に付けたいと思った理由は、自身に対する変化を促すことができると考えたからです。会話する力は、生活面だけではなく将来社会に出ることにおいて人と会話することや、子どもと関わるうえでも使える力であるため身に付けたいと考えました。自分で考えて行動する力は、自分自身引っ込み思案であり何か動こうにもすぐ行動ができない性分であるため、一度考えて行動をしてみることで身に付けたいと考えました。

2 企画の内容

この企画では、児童センター内での子どもに携わる仕事を職員と共に行いました。例えば、今後センター内で使う工作の事前準備や、子ども達の前で手遊びや絵本を読んだりすること、ピアノを披露したりすることなどセンター内でできることが主な活動です。他にも、子どもと一緒に遊んだりお話したりなど子どもとの関わりも含まれています。これらの内容は、自分が将来なりたいと考えている保育士の仕事につながると思い、自身で提案して行った内容がほとんど取り組まれています。

3 主体的に取り組むことができたこと

自身の特技であるピアノ伴奏です。児童セ

ンターでは、「にこにこタイム」といった子ども達との関わりがある時間があり、そこで手遊びや絵本を読むことができます。その際、蝶々の動きにまつわる活動を行うとのことなので、ピアノ伴奏をすることを提案しました。それにより、「ちょうちょ」の曲に合わせたミニゲームを行うことができました。他にも、秋の曲にあわせて「赤とんぼ」を弾いたりするなど自分の特技を最大限に発揮することができました。弾いている時の子どもの反応は、音楽に乗って動いており楽しげでした。職員の方からは非常に高評価であり、自分のピアノの腕を評価してくださいました。自分としては好意的な反応をもらえたので、達成感や満足にピアノを弾くことができた充実感がありました。

4 気づき、学び、達成感

「子どもや保護者との関わり」に気づき「周囲をよく見て動くことの大切さ」を学びました。前者の関わりはコミュニケーションに関することです。保護者や子どもと少しずつでも関わるのが保育士で使われるコミュニケーションにつながるのだと気づきました。また、どんな些細な事でも子どもと楽しく話したり、保護者とも色々な話題を振って話そうとする心持ちでいることも大事なことなのだと気づきました。後者は周囲の状況や職員さんの動向をよく見て、自分が何をすべきなのかを考えて動くといった、先のことにつながることを学びました。これは、次の時間には何の予定が入っているのかを考えて、やるべきことを理解し次のための準備に取り掛かったりすることができたことから学ぶことができました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今後身に付けたい力は、「視野の広さ」や「対応できる力」です。視野を広げることでより

自分のできることが広がり、動きもより良い方向になると考えます。また、対応できる力を身に付けることで、様々な事柄に自分に対応して動くことができるので、今後様々な物事に携わることをしたいと考えました。これらの力を身に付けることで、自分がこれから先にできることの範囲が広がり様々なことができるようになると考えています。



1 この企画を考案した理由

私は現在大府市消防団に所属しており、将来は消防士を目指しています。消防団では体験できない体験をしたいと思い大府市消防のインターンシップに応募しました。そして、自分自身が消防士という仕事が向いているかを確認し行くことを目的としました。そして、この人間力総合演習の活動時間に入れさせてもらうにあたり、私は行動力、積極力を身に付けたいと思いました。行動力、積極力を身に付けることにより、消防士の方に積極的にお話しをする機会を作ることや、体験などがあったら積極的に参加することで消防士の方に良いアピールができると思いました。

2 企画の内容

インターンシップは8月13日から23日の9日間行いました。警防3日間、救急、救助2日間、総務課、予防課1日間ずつ行いました。

総務課では、主に消防士とはどのようなものか、消防の基本を教わりました。また、半田市にある知多広域消防指令センターに訪問し、119をかけたらどのようなことになるのかを目の前で見させていただきました。

警防ではホースの延長、巻き方、ロープの巻き方、エイトランといって、全員で掛け声をかけながらランニングをすることをしました。また訓練体験では、全員で協力し、ホースを延長、結合し、的に水を当てることを協力しながらやりました。

救急では、ストレッチャー、レスキューシート取り扱い、バイタル測定、胸骨圧迫、換気、

救急車内の資機材の説明、訓練体験をさせていただきました。救急での訓練体験では実際に要救助者が2階にいる設定で3人で救急車に乗り込み、2階に行きバイタル測定などをし2階から1階まで運び救急車に搬送する訓練を実際にさせていただきました。ここでは、自分のやることに必死で要救助者の方とコミュニケーションを取ることができずコミュニケーションの大切さを知りました。

救助では、ロープ登はん、降下、要救助者引き上げ、ロープ結索、要救助者探索訓練を行いました。要救助者探索訓練では2人1組になり、実際に酸素ボンベ、防火服を着用して目を瞑りながら探索しました。目を瞑りどこに何があるかわからない状態で行うことに恐怖心がありましたがやり終えた達成感はそのすごいものがありました。

予防課では予防担当、査察担当、危険物保安担当に分かれています。事務所の立ち入り検査、消防用設備等の設置指導、危険物の規制、指導及び火薬類の、使用許可事務を行い火災などを未然に防ぎます。実際に森岡公民館に査察しに行き消火器があるかなどを全員で調べました。

3 気づき、学び、達成感

大府市インターンシップを通して新しく学んだことは、コミュニケーション力、チームワーク力です。消防という仕事を通して、仲間同士とのコミュニケーションをしっかりとっていても実際の訓練ではなかなかうまくいかないことや、この時にコミュニケーションを取っておけばよかったと反省点が多くありました。また、実際に消防士の方も休み時間は皆で過ごしコミュニケーションをしっかりと取っていました。コミュニケーションをすることにより、それぞれのチームの力は上がっていくと思います。

4 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私は今回の体験を通じて新しい目標ができました。消防士になり、より多くの人を救うため、手話検定や英語力の取得をしようと思っています。その理由は、もしも、要救助者が外国の方だったら、もしも要救助者が耳が聞こえなかったら、そのような時要救助者の方とコミュニケーションを取ることができなかったら救える命も救えないと思い、勉強しようと思いました。

この人間力総合演習は 60 時間もしないといけなく、とてもめんどくさかったり、まだやらなくてもいいかって思ってる人もいます。実際に私自身もそうでした。でもまたそれを、違った視点から考えて、自分の将来につなぐことができればそれは、めんどくさかったり、やらなくていいやということはなくなり、やろうという気持ちになると思います。そのため、ちょっとでも僕の話聞いて、将来のことを考え、インターンシップを検索し行動してくれたら、嬉しいと思います。



1 この企画を考案した理由

部活動が忙しく人間力開発センター企画や教員企画などの、決められた時間に行う活動に応募ができなかったためこの企画を考えました。日々部活動で二ツ池のグラウンドを利用させていただいており、地域の方がいつもゴミを拾ったり池の管理をしている姿を見てきました。私たちは、社会力や知的視力などを高めたいと考え、セレクトナの館長と話し、この活動をさせていただくことになりました。

2 企画の内容

二ツ池公園周辺の清掃がメイン活動でしたが、単に掃除して終わりではありません。セレクトナの館長と話し、ゴミを集めるだけでなく、どのようなゴミがどこに落ちているかをマップにメモしながら拾いました。その日にゴミの数を集計し、活動の最終形態として最も多かった場所に、館長や大府市役所の方と意見を交換しながらポスターを作り掲示をしました。

3 主体的に取り組むことができたこと

主に知的視力や社会力を高めたいと思っていました。特に社会力では、セレクトナの方だけでなく、ゴミを拾う際にすれ違う地域の方や、大府市役所の方とコミュニケーションを取りより良い社会に向けて取り組めたと思います。大府市役所の方とは、二ツ池のゴミを減らすためのポスター掲示をしたいと考え、市役所の方に許可をいただくことから始めました。許可を受けるだけでなく、何個か案を

提案しアドバイスをいただくなどのコミュニケーションを取りました。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通して自分が気にして見ていないだけでいつも通っている道にも、たくさんのゴミが落ちていることに気がつきました。また、ゴミを拾い続けることにより少しずつですが日を重ねるごとにゴミが減っているとも感じました。ゴミが落ちているから捨てていいという認識をする人も多いと実感しました。また、自分自身もこの企画を通して、歩いているときに以前よりかはゴミに気がつくようになりました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

この活動を通して、ゴミを見つける回数が増え拾う回数も増えたと思います。しかし、まだまだ広い視野で物事をとらえたり鋭い着眼力といった知的視力は足りていないと思うので、今まで以上にゴミに気がついたり、周りのものに対して広い視野で見られる人になりたいと思います。



石原 凜香さん

健康スポーツ科学科
3年

二ツ池セレトナ清掃
活動

1 この企画を考案した理由

私は、当事者力や行動力を高めたく、普段部活動の練習で使用させていただいている二ツ池公園という場所があることを当たり前だと思わず、感謝の気持ちをこの活動を通して表していけたら良いと思い、この企画を考案しました。

2 企画の内容

この活動は、二ツ池公園周辺の清掃活動です。セレトナの館長と話し、ただゴミを集めるだけでなくマップにどのようなゴミがどこに落ちているかをメモしながらゴミを拾いました。その日にゴミの数を集計し、活動の最終形態として最も多かった場所に、館長や大府市役所の方と意見を交換しながらポスターを作り掲示をしました。

3 主体的に取り組むことができたこと

清掃活動をするだけではなく、二ツ池公園の中でもどこに何のゴミがどのくらい多いかを調べ、何かの形でゴミを減らしたいと考えました。大府市役所の方がセレトナの方に来ていた際にお声掛けをし、ポスター作成をしてよいかをお願いし、承諾してもらい、3種類自作し、公園内に貼りました。

4 気づき、学び、達成感

活動中には散歩をしている方から話しかけていただいたり、ありがとうと言っていただけでとても達成感を感じる機会が多かったです。

また、この企画を通して常に周りを見て行動するようになって視野が広くなり、自分が活動していることだけでなくそれ以外のことも自分のこととして捉えようという当事者力を身に付けることができました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今後も、普段自分が行っていることに対して、どんな人がどんな場所に関わっているかを考え、その人がどんなことで困っているのか、どんなことをすれば喜ぶかを考え、関わっていることに対して良い活動ができれば良いと思います。またそれを通して実際に行動をしていき、行動力を身に付けていきたいです。



河合 風南さん

健康スポーツ科学科
3年

カンボジアの孤児院
での活動



齋藤 未来さん

健康スポーツ科学科
3年

カンボジアの孤児院
での活動

河合：私達は2024年2月に10日間カンボジアのシェムリアップという都市へ行き、孤児院のボランティア活動をしてきました。私達2人に加え、星城大学の学生1人と一緒に行って来ました。

カンボジアってどこにあるか知っていますか？

齋藤：東南アジアにある国で、日本から4,000km離れたところにあります。日本から直行便は出ていなくて、日本からタイで乗り換えをして、12時間程かかりました。国旗の真ん中の白いものは、世界遺産のアンコールワットという遺跡を象徴しています。実際に私達はアンコールワットにも行って来ました。1日目はアンコールワットなどを観光して、2日目からは孤児院で過ごしていました。

なぜ私達が海外ボランティアに行くことにしたのか？

齋藤：小学生から続けてきた陸上競技を大学2年生の時に辞めました。陸上のかわりに教職を深く学ぼうと思っていましたが、全く身

が入らず大学も辞めようと考えていました。そのような時にSNSで海外ボランティアの活動が目にとまり、自分も海外の教育について知りたいと思ったことがこの活動につながりました。

河合：何か自分を変えたい、変わりたいという思いがあったからです。当時は高校まで頑張ってきた部活動中心の生活を終え、新たな強みを見つけたいと思っていましたが、そのきっかけや頑張りが分からない状態でした。そのような時に2人に誘ってもらったことで、この機会を無駄にできないという思いが固まり、渡航を決意しました。

何か夢中になって頑張っていることはありますか？

河合：去年の私達と同じような思いを持っている人もいないかと思います。では、自分達が期待を持って飛び出した場所にはどんな学びや出会いがあったのかを話していきたいと思います。皆さんの思う孤児院はどんな場所ですか。そこで暮らす子ども達はどんな様子だと思いますか。自分達もはじめは虐待を受けた子どもや心を閉ざしている子どもがいるのではないかとマイナスイメージを持っていました。でも孤児院の子ども達は、経済的な理由で家族とは住むことができない子どもでした。子ども達の様子は自分達が想像しているよりも明るくてたくましい姿でした。そこで私達は、体を動かす楽しさを知ってほしいという想いでミニ運動会を企画しました。馬跳びリレーやぱりんこ食い競争を行いました。自分達で企画しましたが、私が1番遅かったです。

また、いらなくなった服を日本から持参し、針と糸を使って縫い合わせ、新しい服を作るといったリメイク活動を行いました。副教科が普及していないと聞いていたので家庭科の要素を取り入れた活動を行いました。漢字が書いてある服が珍しくて、子ども達は喜んで

くれました。さらに、日本の方が孤児院を運営しているということもあり、孤児院では夕方になると 17 時から日本語教室が始まります。現地ではクメール語という言葉を使っていますが、日本語を話せることが子ども達の武器になり、ホテルで雇ってもらえたり、観光ガイドとして働くことができたりするため日本語を勉強しています。

齋藤：私達はスラムにも行ってきました。このスラムには家もあって、家賃も発生しています。ここに暮らしている子どもと孤児院の子どもの対照的な違いは、家族と暮らしていることです。孤児院にいけば、学校に通えて、ご飯も十分に食べることができますが、スラムの子どもは、あえてここで暮らしています。それは、この方達にとって、家族と暮らしていくことが 1 番の幸せだと考えているからです。孤児院の子どもとスラムの子ども、それぞれに幸せの形があると気づきました。これは実際に私がカンボジアへ行かなければ、気づくことができなかったことだと思います。それに加え、カンボジアでの日本人の方々との出会いも大きな出来事の 1 つでした。ごはん屋さんでたまたま隣の席になった方々はカンボジアの病院に小児がんの治療を普及させようと来ていた小児科医でした。さらに、千葉県から見た美容師の方々もいました。街でフリーカットをしたり、孤児院の子どもや、スラムの方の髪を切ってあげたりして、自分の持つ技術を存分に発揮し活動されていました。この方々と出会って、すごく悔しい気持ちになりました。直接的な支援をされているのに対し、自分達は一緒にご飯を食べて一緒に遊んで、一緒に生活することなど表面的な支援しかできていないと感じたからです。この気持ちも新たな出会いがなければ気づかなかった気持ちでした。

カンボジアには経済的な理由や学校不足で教育を受けられない子どもが普通にいて、学校へ通えても十分な学びを受けられない現状

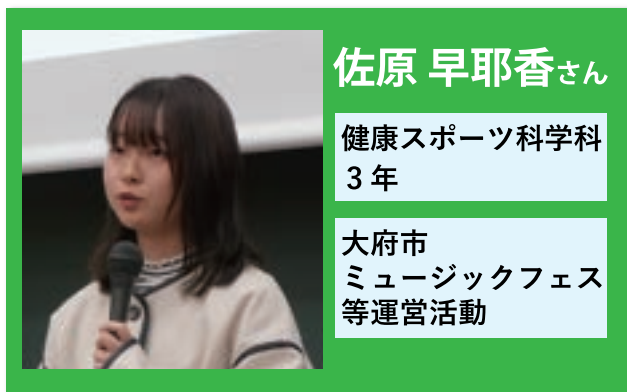
があることを知りました。当たり前のように高校を卒業し、大学に通わせてもらっている立場で、大学がつまらないだの辞めたいだの言っていた自分が情けないと思いました。日本での当たり前が存在しない国へ行き、孤児院の子どもや日本人の方々などたくさんの人たちと出会い、もっと頑張らなければという原動力につながりました。

新しいことに挑戦することや今まで関わったことのない人と何かをするということはとても難しいし、不安だし、めんどくさいと思います。自分達もパスポートをとったり、飛行機をとったり、正直めんどくさいと思ったことがたくさんありました。でも 1 歩踏み出したことによって気づけたもの、得たものが本当に大きくてカンボジアに行ってもよかった、子ども達に出会えてよかったと心から思うことができます。たかがボランティア、60 時間だけど、つまらないと思いながらやる 60 時間と何か変えたいという想いをもって挑戦する 60 時間では、自分の成長にとって大きな差になると思います。人間力総合演習で 60 時間の活動をやらなきゃいけないのならやってよかったと思える価値ある時間にしなきゃもったいないと身をもって感じました。この話をきいて、人間力総合演習を前向きに取り組むことのできる学生が増えたらうれしいです。

河合：私からは別の視点から皆さんに伝えたいことがあります。それは、この 60 時間を必ずしも有意義な時間にする必要はないということです。実際私は 1 年生の時に、この 60 時間の活動を、卒業単位を取るための義務的なものとしか思うことができず、ボランティア活動という名目に納得できませんでした。そこで、とりあえず 60 時間全部終わらせてその後の 61 時間目から本当のボランティア活動をしように決めて、1 年のうちに 60 時間全て終わらせました。今回の海外ボランティアも 61 時間目以降の活動になります。できれば、60

時間の中で自分の人間力が高まるものを求めて活動することが望ましいとは思いますが、私のように義務感を感じている人もいます。そんな学生に、私から勧めたいことは「とにかくやってみる」ことです。やる気が出るタイミングはそれぞれだからこそ、何となくで始めてもいいと思います。その中にやりがいを感じるものが見つかるかもしれないし、60 時間終わったあとの卒業までの時間の中で何か好きなことを見つけられるかもしれない。

決められた環境に不満を感じている時は、自分が変わることが 1 番の解決策です。大学生活は良い意味でも悪い意味でも自由な時間。この時間をどうやって生かすかが大切だし、私が 2 人に誘われたように、自分に良い影響を与えてくれる友達と過ごすこともとても大切です。友達と高め合いながら、そして自分も周りに対して良い影響を与えられるように頑張ってもらいたいです。私達の話聞き、皆さんの原動力の 1 つになれば嬉しいです。



佐原 早耶香さん

健康スポーツ科学科
3年

大府市
ミュージックフェス
等運営活動

1 この企画に参加した理由

友人と一緒にやってみないかと誘われたことがきっかけで参加しました。また、一から中学生や大人の方たちと大きな行事を作り上げることを経験したことがない私にとって中学生や大人の方たちとのコミュニケーションの取り方や関わり方、考える価値観など今までの自分自身の考え方や感じ方とは違う新しい面に気づくことができるチャンスだと思いました。

2 企画の内容

この活動は、長年大府・東浦でまちづくり活動などに取り組まれている一般社団法人大府青年会議所が主催する創立 50 周年事業として行われました。感謝がテーマとなっており、中学生がミュージックフェスティバルなどを通して、日常の感謝の気持ちを伝え、それができるように大学生が企画・立案などをして導きました。当日は主に 3 つのブースに分けられました。キャンドルに感謝の言葉を書き、来場者に会場を埋め尽くす感謝のキャンドルを見てもらい感謝の輪を広げるキャンドルブース。地域に感謝を届けるミュージックフェスを開催するド感謝祭。ド感謝祭では、中学生が直接親御さんに感謝の気持ちを届けたり、IKEさんや大事MANさん、TOSH IK IN Gさん、n o b o d y k n o w s +さんをお招きして会場を盛り上げました。来場者をおもてなし、参加して楽しんでもらうことで感謝を伝えるおもてなしマルシェは、輪投げと射的を行い、2 歳から大学生まで幅広い年代の人

に楽しんでもらいました。

3 主体的に取り組むことができたこと

私はおもてなしマルシェを担当しました。輪投げはハロウィン感を出したり、射的は海賊感を出したりして今の季節に合う雰囲気を出せるように大きなシートにペンキを塗ったり絵をラミネートして貼ったりと来場者が楽しめるように行動しました。また、中学生がどうしたら感謝を伝えることができるのか、おもてなしマルシェを効率よく回転するにはどうしたらいいのか考えました。1 人ひとり役割分担をし、来場者はもちろん中学生、当日スタッフ全員が楽しめるように 1 人ひとりに声をかけたり、一緒に活動したりしました。

4 気づき、学び、達成感

1 つ目は、リスクの予測が不正確であったことです。大きな行事を一から開催することは、必ずしもうまくいく保証はなく、これから起こるかもしれない障害を予測することが大切でした。このことが欠けていたことで計画の見直しや変更が必要となり、学校の勉強や部活の時間を削ることがありとても大変でした。この乗り越え方として、これから先に起こるかもしれない障害を予測してその対処法を考えることや、少しでも疑問に感じたことを企画スタッフだけでなく青年会議所の方たちと話し合いをしました。話し合いを重ねることで仲間の連帯感が生まれ全員で行事を成功させようという団結力が強まることを学びました。

2 つ目は、信頼関係が成立していなかったことです。企画スタッフ 6 人は、同学年・同学科であったことからその都度起こった出来事や悩みを共有していました。しかし、青年会議所の方とは、話し合いたいことや伝えたいことがあっても、お互いの時間の確保ができないことや、行事に対する考え方が異なるなどお互いのずれが生じたことでコミュニ

ケーションが不足していました。大きな行事を成功させるためには 1 人ひとりの協力が必要となります。全員が成功させたいという目標があるならば、なおさら手を取り合わなくてはなりません。話し合うことを諦めるのではなく、成功させるために向き合うことが何よりも大切だと気づきました。話し合うことで新しく気づくこともあったり、お互いの関係性がより深くなると考えました。伝わらないかもしれないから伝えないのではなく、まずは伝えてみる。伝える努力をすることでこれからの生活が変化していくと思いました。

達成感の面では、準備段階で色々なことがありましたが、ミュージックフェスティバル当日は、青年会議所の方、当日スタッフ約 60 名、中学生運営委員会 27 名、その他ボランティア全員で協力して成功することが出来ました。来場された方が楽しそうな表情を浮かべているのを見てやってよかったなど達成感がありました。私自身も楽しい時間を過ごすことが出来ました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今回の活動で関わった中学生、青年会議所の方とは初対面でした。初対面の人や関わりが少ない人との発言は消極的で行動も周り合わせてしまう私にとっては毎回の会議や集まりが不安でした。中学生から青年会議所の方とは、年齢の幅も広く、コミュニケーションの取り方や、関わり方で壁を感じることもありました。ですが、その度にたくさん時間をかけて話し合いを重ねました。どのようにすれば中学生がミュージックフェスティバルを通して感謝を伝えられるのだろう、どうしたら中学生や来場者が楽しんでもらえるのだろうかなど他の目線で考えることが多くありました。

将来、教員を目指す私にとって相手目線で考えること、他者への伝え方、他者への話し方など学ぶことが多くありました。この経験

は将来に活かされると思っています。

そして将来に限らず、日常生活でもリスクの予測力や人との信頼関係も関連しているので、今回得たことをつなげることができる行動を取り続けていきたいと思っています。



辻 蒼葉さん

**健康スポーツ科学科
3年**

**大府東浦花火大会
運営スタッフ活動**

1 この企画に参加した理由

私は、昨年度の人間力の講義での発表を聞いて心に残ったのがきっかけで、最初は当日スタッフに参加する予定でした。大府に住んで3年目で、割と会場の近くに住んでいるにもかかわらず、大府東浦花火大会を通りすがりでしか見たことがなかったため、実際に会場で花火を見たいという気持ちがありました。また、人間力開発センターのスタッフの方に「企画スタッフやってみない？」と誘っていただいたのもきっかけの1つです。準備の段階から大府東浦花火大会に参加しようとは全く思っていなかったもので、正直最初は「友達と一緒にやってくれるなら企画スタッフやってもいいか」という軽い気持ちで企画スタッフに参加しました。この活動は、今まで色々な人間力の活動をしてきた中でも1番大きな活動で、今まで身に付けてきたことを最大限に活かすチャンスだと思ったので、自分の中で集大成として取り組んできました。今まで、沢山の活動に参加して回数を重ねていくごとに人間力を高めることができていましたが、私は不安が勝ってしまい、自分の考えや意見があっても他の人に影響されてそのまま物事が進んでしまうことや、人を巻き込んだり引っ張ることに苦手意識があったので、「決断力」と「統率力」を身に付けたいと思い参加しました。

2 企画の内容

大府東浦花火大会は、大府市と東浦町にあるあいち健康の森公園で毎年8月に地域の企

業や市民の皆さんが協力して開催されている花火大会で、今年で8回目の開催でした。今年は、台風の影響により、8月は中止となりましたが、10月13日に延期開催することができました。

この企画に取り組むにあたって企画スタッフは、4月から活動を始めました。主に縁日ブースの企画・製作、協賛エリア、立入禁止エリア、清掃、8月開催時は熱中症対策の企画・運営を行い、それぞれ企画スタッフは各担当のリーダーとして活動しました。月に1度定例ミーティングを行い、学年学科がバラバラの中で、打合せや企画準備など色々なことを決めながら進めていきました。今回4つの縁日ブースを出したので、どんな縁日ブースを出すか、みんなで一から話し合いをしたり、製作を行いました。元々、8月31日に向けて4ヶ月間活動してきて、台風の影響で本番3日前に中止の連絡が来たときは、「今年の最初の花火を生で見るのは絶対大府東浦花火大会だ」と心に決めて一生懸命取り組んできたので、悔しい気持ちでいっぱいでした。元々延期開催の予定もなく、延期開催の例もなかったため、10月13日に延期開催が決まった時は、まさか延期開催するとは思っていなくて、気持ちを切り替えるのに時間がかかりましたが、素直に嬉しかったことを今でも思い出します。そこから約1ヶ月半、変更点などの最終調整をして、無事に10月13日に本番を迎えることができました。

3 主体的に取り組むことができたこと

私は、全体副リーダーとしてチームの中心となって取り組んできて、学年学科がバラバラの中、そして花火大会の主催である大府東浦花火大会実行委員会や大府青年会議所の方々と協力して色々なことを決めて、まとめていくことがとても大変でした。その中でも今回、縁日ブースで輪投げ・ヨーヨー釣り・ストラックアウト・千本引きの4つ出したのですが、それらの内容やルール、備品や景品

の数などを一から決めつつ、自分たちで製作したため、この企画の中で1番時間をかけました。縁日ブースの製作時期が、ちょうど夏休み期間でなかなか全員集まることができない中で、一方的になったり、人任せにならないように、製作状況を随時共有し、協力しながら縁日ブースの製作に主体的に取り組むことができました。また、全体副リーダーとして当日は会場の立入禁止エリアを担当して、花火大会を円滑に運営するために、準備の段階では配置箇所の確認や当日のスケジュールの確認を念入りに行い、当日スタッフのメンバーと積極的にコミュニケーションを取りながら、連携を図りました。自分が先頭に立って運営し、当日スタッフのメンバーをまとめ、主体的に活動することができました。

4 気づき、学び、達成感

この企画全体を通して学んだことは、信頼関係を築くことと自信を持つことの大切さです。私は、今まで活動してきて正直7月まではまだきちんと話したことがない人もいて、信頼関係を築けていない状態で、指示や意見を発言しても伝わりにくいし理解しにくいなと感じていました。また、何をやるにしても具体性がなく曖昧だったり、自分では大丈夫だろうと思っていても、実際は思い違いが多くて準備が足りず、ミスしてしまうことが多かったです。また、1年生の皆さんも個人や集団で取り組むことに対して何かしら不安になることや自信を持てなくなってしまうことがあると思います。私も、実際本番が近づくにつれて楽しみもありましたが、無事に開催できるのか、当日スタッフの皆が花火大会に対してついてきてくれるのか、引っ張っていかれるかという不安の方が大きかったです。でも、自分の行動や気持ち次第でその場が大きく変わってしまう、すなわち自分の存在自体がチームにマイナスの影響を与えてしまうことにも気づきました。実は、全体副リーダーは4月からではなく途中からリーダーを支え

る形として活動することになったのですが、副リーダーを引き受けたのは、信頼関係を築いていくためにも自分から積極的に発信していかないとダメだなと思いチャレンジしました。副リーダー就任は、決断力や統率力を身に付けるきっかけにもなり、大きな1歩を踏み出すことができました。また、信頼関係や自分の存在価値はチームのパフォーマンスに影響するからこそ、取り組んでいることに対してまずはやってみるという自信を持つことが何よりも大切だと実感しました。10月13日、初秋の夜空に色とりどりの大きな花火が打ち上げられた瞬間や、花火が終わった直後、たくさんのお客さんから「最高だったよ!」「感動した!」「延期開催してくれてありがとう!」という声を直接いただいたこと、一生忘れません。そこで初めてこの企画を4月から頑張ってたよかったなという達成感と同時に「終わっちゃったんだ…」という寂しさを感じました。そして、自分自身成長することができました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私は、来年度もこの企画に参加しようと考えています。今回の活動で得たことは、将来に活かせることばかりで、自分の中で将来の選択肢が広がるきっかけにもなったので、もっと自分自身が成長することができるように頑張りたいと思っています。今まで人間力の活動をしてきて「人間力」って何なのかと考えた時に真っ先に浮かんだのは、社会の一員として、一人の人間として、強く生きていくために必要な力でした。「人間力」は人それぞれ考えや必要な力は違うと思いますが、私は人と関わるのが好きで、これからも人と関わることを大切にしながら自分に必要な力を見つけていきたいと考えています。来年度は、さらに良いものになるように今回の活動で得たことを活かしつつ、もっと一人の人間として強く自信をもって色々な人と関わり、自己形成ができたかなと思います。もし、今回の

話を聞いて少しでも興味を持ってくれた方、参加したいと思った方、自分を変えたいけど機会がないと思っている方、自分の将来に悩んでいる方、ぜひ私と一緒に最高の花火大会を作りませんか。そして、半年間何かに対して取り組むことは大学生になるとなかなか機会がないと思うし、みなさんは 1 年生で時間があるほうだと思うので、自分自身の成長のためにチャレンジして人間力総合演習をきっかけに冒険してみませんか。花火大会活動に関しては絶対に後悔させません。またお会いできたら嬉しいです。



野々垣 希望さん

**健康スポーツ科学科
3年**

**大府東浦花火大会
運営スタッフ活動**

1 この企画に参加した理由

私は人間力の活動時間は2年生ですでに終了し、単位も取れていました。しかし、去年の活動報告会で同じ学年の学生の発表を聞いてこれまでの活動を振り返った時、ただ時間を稼いだだけの活動に後悔しました。そんな時、友達がこの企画に誘ってくれました。最初は断ろうかと思っていましたが、後悔したまま卒業したくないし、学生生活の1つの思い出として参加するのもいいなと思い、この活動に参加しました。

2 企画の内容

大府東浦花火大会は「地域の発展と活力をつける」「子どもたちに夢を与える」ことを目的に地域の方々が中心となって行う花火大会です。今年で8回目の開催となります。4～8月までの予定でしたが中止、延期になり10月までの6ヶ月間活動を行いました。私達は主に来場者の方とコミュニケーションを取る活動をメインに行いました。その中で「花火大会全体の運営サポート」と「子供向けブースの企画・製作・運営」の2つを行いました。

3 主体的に取り組むことができたこと

1つ目は「報告・連絡・相談」です。大人の方はもちろん、学生の間でも2～4年生と幅広くこの活動に参加していたので、全員が集まって活動することがとても難しい状態でした。資料作成やミーティングなどなにかしら活動をした時は「今日はこんなことを行いました」「今度この活動するので来れる人は来て

ください」など、些細な事でも必ず報告・連絡・相談することを心がけました。

そして、ただ単に資料を作る・文章を送るだけでなく、「きちんと伝わる・理解してもらうためにはどうしたらいいのか」ということを常に考えてこの報連相を行っていました。実際に活動を行っていて、ラインで送った文章が相手にうまく伝わっておらず、理解の入れ違いが起こってしまったことがありました。そのため、文章を送るときは表現がきちんと伝わるか何回も確認したり、文章だけで伝わっていない時は電話をしたり直接会って伝えたりもしていました。みんなの思いを1つにするため、同じ目標を達成するためにもこの報連相はとても大切にしていました。

2つ目は「毎月行われる会議」です。この会議は学生がメインとなって行うことが大前提でした。そして企画スタッフ全員と大人の方が直接会って意見交換ができるとても貴重な時間なので、いかに内容が濃い会議になるかを考えて会議の話す内容や時間配分など事前準備を入念に行いました。

4 気づき、学び、達成感

花火大会当日、花火が上がりふとお客さんの方を見た時、たくさんの笑顔を見ることができました。その笑顔を見た瞬間、6か月の活動期間の出来事が一気によみがえってきて、「自分、ほんとに6か月やり切ったんだな」という達成感、「やればできるじゃん」という大きな自信がにつながりました。このほかにも主体性、コミュニケーション力、柔軟性などたくさんの力を得ました。得たというか気づいたら身に付いていました。それくらい無我夢中になって取り組んだ活動でした。

この活動が終わって最初に思ったことは、6か月前のあの時、この活動に参加するという1歩を踏みだしてよかったなということです。あの時「面倒くさい」「引っ張る立場なんて自信ない」と思って踏みとどまっていたら、こんな素晴らしい出会いや経験をすることはで

きなかったし、自分を変えることができなかったかもしれません。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

ぜひ意味のある人間力総合演習にしてください。私は大学で部活もやってないし、学校とバイトだけという、ごく平凡な学生生活を送っていました。この授業もただ単に 60 時間やって単位を取って卒業すればいいや。そういう人間でした。しかし、この大学生活で何かこれやったぞ！というものを残したかったと思っていたそんなときに、この至学館ならではの人間力総合演習という出会いがありました。この授業は自分を見直すきっかけにもなったし、自分をさらに知ることができました。この身近にある素晴らしいチャンスを皆さんも無駄にしないでほしいです。

そして、1 歩踏み出してみませんか？私みたいに何かやりたい。「けど」、「バイトや部活が忙しい」「時間がない」「めんどくさい」と自分で何かと言い訳を作ってしまう、なかなか 1 歩を踏み出せない人もこの中にいると思います。でも、その 1 歩を踏み出してしまうと後は意外といけちゃいます。もちろん「できるかな」「失敗したらどうしよう」と不安や緊張もあると思います。でも大丈夫。周りには同じ不安を抱えた仲間がたくさんいるし、人間力開発センターの方や地域の方など支えとなってくれる大人の方がたくさんいます。

告知にはなってしまいますが、2025 年もこの大府東浦花火大会は続いています。1 歩が踏み出せていない方、何かやってみたい方、まだ活動時間終わっていない方。まずはこの活動に 1 歩足を踏み入れてみませんか？



松田 乃映さん

健康スポーツ科学科
3年

市民映画づくり
スタッフ活動

1 この企画に参加した理由

学内で紹介されていた活動企画で祭りや子ども、高齢者との交流、清掃活動などが多い中で「市民映画」というタイトルにとっても惹かれたからです。そして、詳しく説明をきいてみると長期的に行われる活動の中で自分の都合がつくときに参加する形で良いとのことだったので休日も自分の好きなことを我慢せずに時間数も得られるかなという単純な理由もありました。ですが、せっかく参加するからには積極的に参加して行動力やこれからの生活に活かすことのできる何かを得られたら良いなと思っていました。

2 企画の内容

この企画は地域の活性化を狙いとする市民映画のプロジェクトです。10月27日には安城のへきしんギャラクシープラザにて上映会も行われました。映画は、メッセージ性溢れるものになっています。実際に作品を観て私自身と重ねられるところがありました。何かにつまずいている人にはぜひ観ていただきたいような内容になっています。

3 主体的に取り組むことができたこと

私が特に積極的に取り組むことのできた活動は、協賛特典のLINEスタンプ作りです。この作品は市民映画のため、協賛金を出してくださる方を募集していました。実際に協賛金を出してくださった方々には映画に関する様々な特典があるのですがその中のひとつがLINEスタンプでした。活動先の方に松田さん

もスタンプ作成のメンバーに加わってみてはどうかと提案してくださったのがきっかけでこの作成活動を始めました。最初は、LINEでの打合せが多く、他の方々が話しているのを確認しているだけでしたが、担当を割り当ててもらったり、直接打合せをしてみたりするうちに意見を言えるようになったり、それに共感して下さって自分の意見が採用されたりすることで自分もこの活動に携わることができていると実感できました。このスタンプ作成をきっかけに活動先の方々とも仲良くなり、活動に参加することが楽しみになりました。

大変だったことは、市民映画とはいえ本格的な撮影現場で周りの雑音や鼻をすする音などかすかな音でも拾ってしまうため何度も撮り直しが必要になります。撮り直しを少なくし、撮影をスムーズに進めるには現場にいる全員で注意をしないといけないことだったので大変でした。でも、本格的な部分を経験することができた気がしました。撮影を経て今年の9月に完成した作品の試写会があり、初めて完成した作品を観ることができました。物語に感動したということだけではなく、撮影の時にばらばらに撮っていたシーンが全てつながって1つの作品になったことや映画を観終わった人が「感動した」と言っていたり、自分自身考えさせられることがあったりしたことなど誰かの心に響くような、心を動かせるような作品に携わることができていると感じることができて嬉しくなりました。

4 気づき、学び、達成感

この企画に参加して1番の感想は、「人の心を動かすような作品に携わることができた嬉しさと達成感」です。最初は時間稼ぎのつもりで始めたものでしたが最終的には積極的に参加したいと思えるようになりました。実際に60時間を超えた今もできる時には活動をさせて頂いています。そういった積極的に行動する力もこの活動を通して身に付きました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

この活動を通して人に何かを与えるということが素敵なことだと感じる事ができて、今後もそういったことをしていきたいと思いましたし、この作品が少しでも多くの人のもとに届くといいなと思っています。12月15日にも刈谷で上映会が行われ、その後は安城、大高イオンなどで上映も行うので活動のサポートを積極的に行っていきたいです。



神谷 星磨さん

体育科学科
3年

大浜燃料地域向け
イベント運営活動



伊藤 壮吾さん

体育科学科
3年

大浜燃料地域向け
イベント運営活動

1 この企画に参加した理由

神谷：昨年もこの活動に携わらせていただき、自分自身の強みでもある行動力とコミュニケーション能力を向上させることができました。私にとって「行動力」というのは、自分から主体性を持って行動する事だと思っています。「コミュニケーション能力」というのは、他者との意思疎通や意見をスムーズに行える能力だと感じました。そのため、今年も参加することでさらにスキルを向上させることができる、他の力を身に付けることができると思いました。自分達で祭り自体を盛り上げていき、ブースを運営してお客さんに喜んでもらうことがこの活動の魅力だと思います。昨年の経験を活かして他のメンバーに対してもサポートを行い、お客さんに楽しんでもらうために今回の企画も参加しました。

伊藤：昨年もこの企画に参加し、大浜燃料さんの会社のイベント企画力の凄さや成功させようとの思いが伝わってきたこと、自分自身も何か力になりたいとの思いがあり参加しました。

2 企画の内容

私達は、西尾市勤労会館で行われた大浜燃料株式会社が主催するわくわく祭に参加しました。物販、縁日、ワークショップなど様々な体験ができるお祭りになっています。また、こちらの企業には、至学館大学を卒業された先輩方も数名おり、一緒に企画を進めました。その中で今年は、私達至学館生でグループを組んで一から子ども達に楽しんでもらえる縁日ブースを作るという内容でした。私達の班では、ボールを投げてもらい入ったところのポイントに応じて景品を渡すというブースを作成し運営をしました。

3 主体的に取り組むことができたこと

神谷：この企画では、縁日ブースを通して小さい子ども達が安心して楽しめるブースを作ることを目指しました。ブースで行う遊びの企画と設計に特に力を入れました。小さい子どもから小学生くらいの子どものがいるため、どのようにしたら楽しんでもらえるか試行錯誤して年齢に応じて設定を変えるなどの工夫をすることができたと思います。年齢に応じた遊びを体験できるブースを設けることで、子ども達の笑顔を引き出したいと思い1番ブースの設計に力を入れることが出来ました。

伊藤：昨年は大浜燃料さんが企画したブースを運営サポートすることがメインの活動でしたが、今年は自分達で企画を考え、製作し、お客様に楽しんでもいただく形式でした。子ども達がたくさん来場するイベントということで、自分達目線ではなく、子ども目線で楽しめることを意識して製作に臨みました。製作費に制限があり、製作に2日間要しましたが、子ども達の姿を思い浮かべて製作できたので非常に意味のある時間になりました。

4 気づき、学び、達成感

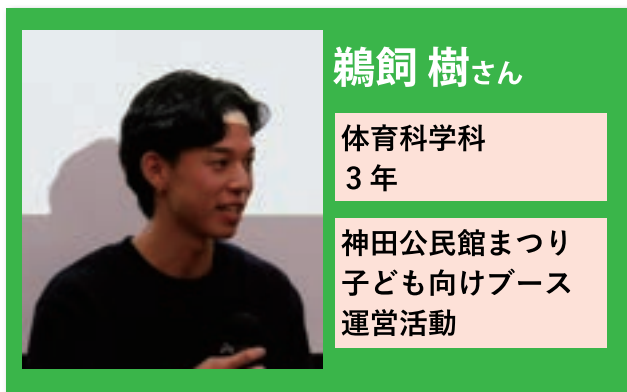
神谷：この企画を通して気づき・学びや達成

感は沢山ありました。子ども達が心から楽しめる環境を作るためには、細かい配慮や工夫が必要だと気づきました。年齢や興味に合わせて遊び方を変えたり、わかりやすい言葉で説明したりすることで、子ども達が安心して参加できる場を提供できたと思います。また、子ども達が楽しんでいる様子や保護者からの感謝の言葉を頂いたときに、大きな達成感とやりがいを感じました。今回の企画を通して、相手を思いやる視点と主体的に行動することの重要性を学び、今後も積極的に活かしていきたいと考えています。

伊藤：実際に自分達が製作した企画で子ども達が楽しんでいる姿を見て、この企画に参加して良かったと思いました。また、企画を通して、目を合わせることの大切さを学びました。目線を合わせると子ども達がこちらを見て話してくれ、心を開いてくれた感がありました。これは大人同士でも大切なのではと感じました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

人間力総合演習はこれで最後になりますが、人間力総合演習で身に付けることが出来たコミュニケーション力、行動力、リーダーシップ力を就職活動で活かしていきたいと思っています。今後の活動では、他者との協働を通じてリーダーシップや行動力を発揮し、責任感を持って課題に取り組む力を身に付けたいと思います。また、どのような場面でも柔軟に対応し、相手に寄り添った対応ができる応用力を意識的に向上させていきたいです。1年生の皆さんもこれから人間力総合演習に参加すると思いますが、活動時間が長いからとかの理由ではなく「実際に誰かの為に」「楽しんでもらいたい」などの意識を持って参加すると自分の成長につながると 생각합니다。



鵜飼 樹さん

体育科学科
3年

神田公民館まつり
子ども向けブース
運営活動

1 この企画に参加した理由

とにかく3年のうちに60時間を終わらせたいと考えていて、人間力開発センターの職員の方に相談をしたところ、今回のこの企画を紹介してもらい参加しました。また、祭りの運営という言葉に惹かれ、自分達で考えて、実行できるという力を身に付けられると考えました。

2 企画の内容

この企画は、神田公民館まつりという大府市の神田公民館で行われる地域の祭りで、飲食、物販、体験型のブースがいくつかあるイベントです。そこで私達は体験型の、水鉄砲を使いたるゲームを行いました。当日は小学生が主に参加してくれて、当初は景品を考えてなかったものの、子どもから景品はないの？と求められ、急遽小さいお菓子を景品として用意しました。子どもの一言で景品を準備したことで、より多くの子どもが遊びに来てくれるようになりました。

3 主体的に取り組むことができたこと

僕たちは当初、大府市で活動をしている「遊友・竹伝倶楽部」という地域の方と連携をして、竹で水鉄砲を作って、竹水鉄砲での的当てをする予定で準備を続けていましたが、自分達の不手際があり、急遽竹が使えなくなってしまうしました。そこで、考えに考えて、竹が使えないなら何かで代用しようとして、店を回って水鉄砲を買い、何とか当日を乗り切りました。そこで、仲間と協力して臨機応変に対応

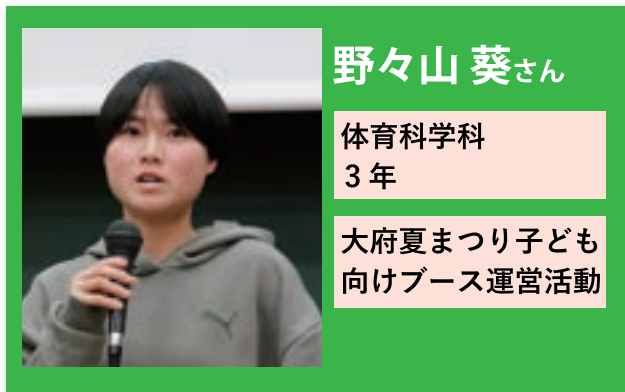
する力を身に付けられたと感じました。

4 気づき、学び、達成感

この企画での気づきは、前日のミスから、ミスのままで終わらせずに何とかしようとしたことで、いつも以上に考える力、協力する力を実感することが出来ました。ギリギリまで準備しなかったという準備不足により、計画的な行動力というのは全く出来なかったですが、ミスをしてしまってから、諦めずに実行し、予定とは違う形で、行動力を身に付けることができました。当日も沢山の子供がブースに参加して、楽しんでいる姿をみて、何とかしようと、諦めずに行動に移したことが当日良い結果になったと実感しました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私達はこの企画で人間力の60時間が終わりました。この企画も含めて60時間行い、学校内、学外のたくさんの人と交流をして、コミュニケーション力が確実に身に付きました。加えて3年になるまで活動時間が0時間であり、この企画もギリギリまで準備しない、無計画な所が自分達の悪いところだということもこの活動を通して実感しました。今回紹介した公民館まつりのイベントでは、トラブルが何度もあったものの、代替案を考え、諦めずに実行し、2日間を乗り切るという、最後までやりきる力が確実に身に付きました。トラブルを乗り越えたこの企画を終え、最も学んだことは、とにかく「計画的に準備し行動する」ということです。60時間を終わらせるのも計画的に、ボランティアの準備、行動も計画的に、計画的に行うということが何よりも大事なんだということを今回の経験から学びました。今後はこの活動で身に付けたコミュニケーション能力を活かして、弱点である計画性のなさを克服していけるような活動に挑戦していきたいです。



野々山 葵さん

体育科学科
3年

大府夏まつり子ども
向けブース運営活動

1 この企画に参加した理由

私がこの企画に応募した理由は、自主性を高めたい、コミュニケーション能力を向上させたいと思ったからです。大学に入学してから様々なボランティアに参加してきましたが、自分が主体となっていく活動には参加したことがありませんでした。3年生になり社会人として働く際に重要となるスキルを身に付けるためにも企画スタッフとして自分が主体となる活動に1度は取り組んでみようと考えました。また、大府夏まつり活動は大府商工会議所青年部の皆さんと共に作り上げる地域のお祭りです。そのため、社会人としてのマナーや様々な年代の人と会話する力を身に付けられると思いこの企画に参加することを決めました。

2 企画の内容

私が今回参加した企画「地域と熱く繋がろう～大府夏まつり活動 2024～」は毎年開催される大府駅での夏まつりに大府商工会議所青年部と共に子ども向けブースをはじめ各種ブースの準備・運営を行い、想像力、コミュニケーション力、実行力を高めることを目的としています。企画スタッフ5名は4月から活動を行い、8月のお祭り当日まで青年部の方と共に企画の打合せや準備からお祭りに関わります。具体的には、大学内で都度集まり、ブース名や景品、当日の動線を考えたり、ブースで使う道具や看板・ポスターなどを製作するなどの活動を行いました。また、お祭り当日は各種ブースのリーダーとして当日スタッ

フをまとめるなどの役割も担います。当日スタッフは7月の事前オリで自分の役割を確認し、お祭り当日にブースの運営を行います。今年のお祭りではボール DE パニック・モーモーピンポン・エンジョイサマードリンクの3ブースに分かれ活動してもらいました。

3 主体的に取り組むことができたこと / 気づき、学び、達成感

私はこの企画で初めてリーダーという立場を経験して、全ての活動で常に主体的に動くという事を意識して取り組みました。最初は上手くみんなをまとめていけるのか、何をやっていけばいいのか分からないことだらけで、とても不安でした。企画スタッフ同士もよそよそしい感じが消えず、どうしたらもっと仲を深めて積極的に活動できるようになるのか毎日考えていました。そんな時、青年部の皆さんから学生にゲーム板と看板の製作依頼がきてこれがチャンスだと思いました。作業はなかなか計画通りには進まず、期限ぎりぎりになってしまいましたが、作業中にお互いがコミュニケーションをとるようになり、自然とフラットに会話が出来るようになっていきました。

また、この企画から携わって、報告・連絡・相談という当たり前のことを行う大切さを学びました。今回の活動では、青年部の皆さんとの打合せや学生だけでの集まりなど様々な集まりがありました。どの集まりも事前に日程が決まっている状態でしたが、欠席や遅刻の連絡などが全体の LINE に入らず、学生だけの集まりでは1度、1人しか来ないという状態にもなっていました。リーダーである自分に個別で連絡をしてくれる学生もいましたが、自分だけが知っていても全員に共有がされていないことで問題が起きてしまいました。この時私が全体 LINE にも報告してねと言言っていれば問題は起こらなかったと思います。チームとして活動するときには必ず全員に報告をして共有することが大切だと

学びました。

また、分からないことや情報が曖昧なときはすぐに相談することで常に迷いなく作業できるとともに全員が再度情報を確認することもできます。迷っている時間があるなら質問をする。質問しても怒る人はいない。どんどん聞く。この相談の大切さを学んだことで、私は迷わず人に聞くということが出来るようになりました。また、連絡するときは電話で直接会話をするのが大切だと学びました。今まで私の中で連絡は LINE などのメッセージが基本でした。また電話に出られなかった時も相手の余裕のある時間でないとかけなおしてはいけないと思い、時間を確認してかけなおすのが丁寧だと思い込んでいました。しかし、その考えは違って何かあればまず電話で直接会話をする。大切なことはもちろんのこと伝えたいことがあればまず電話で話す。そして、電話に出られなかった時は気づいたらすぐにかけなおす。これが基本であり相手と信頼関係を築くために大切になってくるとだと学びました。これらのチームで活動するときには当たり前に行うべき、マナーともいえることを学べたことは自分にとって大きな成長となりました。どんな活動でもまず当たりのことを当たり前に行うことで相手との信頼関係を築くことが出来ると感じました。

4 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私は今回の企画で人間力総合演習の活動時間は終えることが出来ました。しかし、今回の企画を通して地域の方との新しいつながりができました。このつながりを消さないように様々な地域の行事に参加したいと思っています。また、今回は様々な年代の方とのコミュニケーションという部分を目標としていましたが、次は外国の方という言葉の壁を乗り越えるコミュニケーションという部分に挑戦したいと思っています。



野原 大希さん

体育科学科
3年

大府イルミネーション
企画・製作活動

1 この企画を考案した理由

大府駅のイルミネーション企画ということで、まず興味を持ちました。企画内容を見るとイルミネーションのデザインから設置まで全て行うということで、自分の意見を言う発言力であったりコミュニケーション能力、そして行動力を伸ばすことが出来ると思い企画しました。

2 企画の内容

大府市では、毎年テーマを決め、デザインや趣向を変えながら大府駅前のイルミネーションを実施しています。その企画・運営は、地域の人々が有志で実行委員会を組み行っています。私達は実行委員の一員としてこの企画に取り組みました。

この企画ではまず、案だしを行いました。大まかなテーマは決まっているのでどんなデザインにするのかを皆で出し合いました。その後、点灯式のイベント企画や使用するイルミネーションのチェック、小物の作製を行いました。そしてイルミネーションを完成させて、点灯式を行い、撤収作業をして終了という流れです。

3 主体的に取り組むことができたこと

主体的に取り組むことが出来た活動はイルミネーションの案だしです。自分はあまり前で話す事が得意ではありませんが、デザインを考える際、積極的に発言をすることが出来ました。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通じて周りを見る力を付けることが出来ました。自分のやるべきことが終わった時、別の作業の手伝いをしたり、自分から仕事を探すことが出来ました。そして、イルミネーションを実際に点灯した時は苦勞もあって達成感を得ることが出来ました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今後はこの経験を活かして自分から発言、自分から行動することを心がけてさらに行動力を身に付けていきたいです。



大石 佳奈さん

栄養科学科
3年

下呂・馬瀬
ワークキャンプ

1 この企画に参加した理由

岐阜の馬瀬という大自然の中での生活で学生だけで生活をするという活動があったので気になって参加してみました。この活動で、集団の中で生活していく中で自分はどんな力があって何が必要なのかを知るためにも参加したいと思っていました。

2 企画の内容

岐阜県下呂市馬瀬という自然豊かな地域で活動をしました。この活動は、トマト農家での農業体験、草刈り体験、地域の方との交流、自然体験を行う中で、自分の将来・キャリアを見つめ直すことを目的とした内容です。トマト農業での作業では、トマトのわき目をとったり、背が高くなったトマトが傷つかないように紐で止めたり素人でも簡単にできる作業を行いました。草刈り体験では、草刈り機を使って行いました。全員初心者だったので使い方をきちんと学ぶことで、けがをせず安全に草刈りができました。地域の方との交流では家を貸して下さった農家さんにご飯と一緒に食べ、その地域の歴史や良さなどお話を聞く機会がたくさんありました。その他の活動では休憩時間やお昼の時間に馬瀬の自然と触れ合い、川に入るなどして自然を楽しみました。合計活動日数は3泊4日、私を含め8名の学生が参加しました。学年は同じ学年から違う学年とそれぞれいました。その学生同士で協力して自炊をしたり、自分たちでルールを決めたり、ともに共同生活を送りました。

3 主体的に取り組むことができたこと

主には朝食や夕食の準備と片づけです。一人暮らしをしていることや他の学生と比べると学年が上だったこともあり片付けや準備を主体的に取り組めました。取り分け用の人数分のお皿や箸の用意、料理の準備に対し、手が空いている人がそれぞれ作業ができるように声掛けや指示を出すことができました。また、農作業では、休憩時間を決めて集中力をもつように作業をしたり、自分の長所を活かし周りを明るく笑わせ楽しく作業ができるように進められました。

4 気づき、学び、達成感

参加して身に付いたなと思うことは自分の意見を持つようになったことです。私は優柔不断で、自分の意見を持っても他人を優先して発言したり言わなかったりすることがとても多かったです。しかし、この活動では例えば朝ごはんを決めるときや起きる時間など自分達で決める場面が多くありました。その中で、だんだん自然と自分がこうすれば良い、あれが良いと思ったことを素直に発言できるようになったなと活動を振り返ると感じました。皆が賛成してくれたから意見を言って良かったなと改めて思いました。この企画を通して学んだことは自分の意見を発言する大切さです。特にこれは集団でいる時です。周りの意見がなかなか出なかったり、自分の意見と違ったりすることが集団でいるとあると思います。しかし、ここで自分の意見を言うことで他人と違う意見もあるのだと思えたり共感してくれる人がいたり、他人とのコミュニケーションをより円滑に図れることにつながると思いました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私は今後の大学生活で何か取り組む前に、計画を立ててからすることを心がけて生活し

ていきたいと思います。課題、テストがまだまだ続き、4 年生では卒業論文という大きなイベントがあります。前もって計画をたて、余裕をもった生活ができるように頑張りたいと思います。



村上 佳穂さん

**栄養科学科
3年**

**市民映画づくり
スタッフ活動**

1 この企画に参加した理由

私は大学 1 年生の春頃からこの企画に携わってきました。映画制作はとても時間がかかる企画なので、長期に渡り、様々な体験をしました。私は中・高校生の時、予定のない休日には、家でダラダラ過ごし 1 日が終わってしまう事がよくありました。また、家族や部活動以外の活動で、同学年の人としか今まで関わりを持っていなかったことも自分の中でこのままではいいのかと思うことがありました。そこで、大学生になるにあたって、年齢、職種問わず様々な方と関われそうな企画だと感じ、応募してみようと思いました。

また、映画のスタッフは常に周りを見て行動しなければいけない、自分から仕掛けて発言や行動をしなければならないというイメージがあったので、行動力を身に付けることにつながると思い、応募をしました。

2 企画の内容

この映画は「生きることと死ぬことをテーマとしたポジティブなヒューマンストーリー」です。三河を中心とした映画で、三河地域の活性化に貢献することを目的としています。営利目的で作られている映画では無いため、市民だけでなく、プロの撮影スタッフやプロの役者も無償で参加しており、有志の集まりで構成されています。また、市民映画は協賛金で制作されています。イズモ葬祭やデンソー、安城市などからも協賛を頂きました。

3 主体的に取り組むことができたこと

この企画で私は、主に現場のスタッフ業務、小道具に関する業務、協賛金に関わる業務を行いました。現場業務では、エキストラの方の誘導や机・椅子の移動などを行いました。撮影が円滑に進むように、撮影の進み具合や次に撮影するシーンを他のスタッフの方々と話しながら自分達で考えて行動することを心がけていました。小道具に関する業務では、葬儀のシーンのメモリアルボード・フォートの飾り付けやカフェのシーンの小物準備、キャストの名札やゼッケン作りなどを行いました。撮影はカメラのセットなどで空き時間がとても長いです。空き時間に今後のシーンに必要な小道具についての話し合いや、次回使う小道具の仕上げをするなど、時間を有効に使いながら進めることができました。協賛金に関わる業務では、特典の考案やチラシの作成を行いました。どのような特典を付ければ協賛してくださる方が多く集まるのか考え、PC ホーム画面の画像プレゼントや、キャストの写真を用いた LINE スタンプのプレゼント、映画本編 DVD のプレゼントなどの案を出しました。また、金額に応じて試写会ご招待の人数を変えたり、企業向けの協賛金額や特典も考えたりもしました。実際に協賛金チームで案を集め、協賛チラシを作成した際には、私が考えた案が多く採用されました。協賛金に関する業務として、ウェーブスタジオ刈谷でエキストラで来てくれた方々に向けて実際に協賛金を集めるブースの担当も行いました。その際に、実際に協賛してくださる方々がたくさんいらっしゃいました。今まで行なってきた事が無駄ではなく、映画の資金を集める役割を果たすことが出来ていることを実感し、とてもやりがいを感じました。また活動をしている姿を見てくださっていたプロデューサーの方から映画に出てみないかと声をかけていただき、メインキャストの方が出るシーンで出演させていただいたり、インターネットラジオに出演させていただくなど、貴重な経験をさせていただく事ができました。

4 気づき、学び、達成感

この活動を通して身に付いた力は臨機応変に対応できる力と、発言をする力です。臨機応変に対応できる力は、撮影が、周りの音や天候で予定通り進まない時に、撮影の場所や撮るシーン、日程の変更に対して、素早い対応ができたため、身に付けられたと思いました。また、発言をする力は、様々な方とのコミュニケーションの中で、自分の考えや価値観を見直すきっかけを持つことができたため、身に付けられたと思いました。所詮大学生だからと受け身にならず、相手に伝えることがとても大切だと学びました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

自発的に行動する力をより高めていきたいと思います。また、映画自体の撮影・編集は終わっていますが、上映会はこれから本格的に始まっていきます。直近では、刈谷総合文化センターアイリスやイオンシネマ大高にて上映が予定されています。また、県外での上映やコンクールへの参加なども予定しているので、より多くの人にこの映画を見てもらえるように、引き続き盛り上げていきたいです。



寺岡 雅虎さん

こども健康・教育学科
3年

チャレンジクラブ
(児童センター)での
講師活動

1 この企画を考案した理由

私はこども健康・教育学科に所属しており将来教師になろうと考えています。小学校の教師は中学校の教師と違い、担当のクラスの児童と過ごす時間が長いです。そのため、子ども達がどんなことに興味を持っているのかを把握しておく必要があると考えられます。本企画では私達講師役の大学生が自主的に行う内容を決めて、それを子ども達に提供するという構成になっています。児童との関わり方や教えるときにどんなことにつまずきやすいのかを理解し、それを指導のポイントに活かせられるようになると考えたため、本企画に参加することを決めました。

2 企画の内容

企画の内容は、大府市の産業文化祭りに展示する作品の制作、おこしものづくり、自由と3つに分かれています。3つの内容に共通していることは私達が何を作るのかを考えて見本作りを行い、安全に制作できるかの確認を行うことです。ですが、この3つの内容を1年に渡って行っていくため、私はまだ産業文化祭りに展示する作品作りしか行っていません。そのため、今回は作品制作 / 展示のことについて説明していきます。

産業文化祭りに展示する作品作りを3ヶ月に渡って行います。3ヶ月といっても子どもたちの活動時間は3回しかなく、時間数で表すと約4、5時間になります。このチャレンジクラブに参加する子どもの人数は10人と多くはないため、1人ひとりときちんと向き合うこと

ができますが、限られた時間で3つ以上の作品を制作しなくてはならないため比較的簡単に作れる物を作りました。絵の具を使ったフルイドアート、ボンドを使ったキーホルダー作り、折り紙での工作を行ってきました。子ども達が主体となって作品を作るため、どの作品も扱う用具を絵の具やボンド、紙皿、ビーズ、折り紙と子ども達の身近にあるもので揃えられるようにしました。本企画の流れは先述したとおり、まず子ども達が楽しめそうな作品を私達がリサーチし、事前に見本作りをします。見本作りでは、子ども達がきちんと完成まで作りきることができる難易度であるのか、楽しく作ることができるのかを考えながら行います。実際に没案となった物もいくつかありました。チャレンジクラブ当日の動きは、開始前に部屋の準備や道具の準備、どのように行っていくのか確認をし、クラブが終わった後は片付けを行い、次時に向けての話し合いをセンターの方と行うという流れです。

3 主体的に取り組むことができたこと

子ども達が楽しめるように、作品をリサーチし、作り、厳選したことです。私達大学生が盛り上がり、子ども達が楽しんでくなくては意味がありません。そのため、作品をリサーチし見本を作ったときに1度身近な人の意見を聞くようにしていました。意見は、デザインが子ども達の好みに合いそうかを聞くようにしていました。安全面や道具の取り扱い方、必要な材料の収集はセンターの方と協力して行いました。

見本作りでは、特にフルイドアートという作品に苦勞をかけました。絵の具と洗濯のりを混ぜて、紙皿の上でドライヤーを使って広げるといふ工作過程ですが、このドライヤーを使って絵の具を広げていくことが難しかったです。インターネットの情報では温風でと書いてありましたが、実際に行ってみると冷風の方が広げやすかったため、見本作りを行っ

て良かったと感じました。他の作品、ボンドを使ったキーホルダー作りでは子ども達が作品作りの際に使いそうなラメやビーズを事前に買うようにしていたことや、折り紙の工作では、形が変形して作った後も楽しめるもの、デザインが楽しめるものを候補に挙げ、子ども達にどれを作りたいかを聞いてから制作に取りかかるようにしていました。事前に見本を作っていたことから、手順や要すべき道具・材料、注意すべき点を把握していたため子ども達1人ひとりに適切な支援をすることができました。子ども達と共に何かを作り上げるということの喜びを知ることができたことと、できあがった作品から達成感を感じることができました。

したらよりイベントが円滑に進んでいくのかを学んでいきたいです。

4 気づき、学び、達成感

私達が裏で子ども達のために試行錯誤をしていること自体は子ども達には伝わらないですが、私達が一生懸命やっていると子ども達にも伝染して一生懸命やってくれるということがわかりました。正直な話、センターの方との連携、子ども達が喜ぶ物をリサーチすること、見本作りがめんどくさいなと思うこともありましたが、子ども達が一生懸命に作品作りに取り組む姿、作品を完成させたときの満足そうな顔、「楽しかった」という言葉が私の本企画の「やって良かった」という達成感につながりました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

本企画に出会えたことで「子ども達のために動くこととその達成感」について味わうことができました。来年ある小学校教育実習に活かしていき、小学校の教員についての解像度を上げていきたいです。ですが、本企画が3月まで続くので、引き続き子ども達とともに何かを作り上げることの楽しさを味わいつつ、センターの方との連携、どのように行動



井田 明香梨さん

健康スポーツ科学科
4年

福祉施設での
インターンシップ
活動

1 この企画に参加した理由

今までの活動ではコミュニケーション能力の向上を目標に取り組んできました。その結果、1年生の時と比べ、コミュニケーション能力は向上してきたと思います。しかし、いまだに自信を持つことができませんでした。そんな中、私は半年もたたないうちに社会人になります。社会人になったらさらに多くの人と関わる機会が増え、コミュニケーション能力が必要になってきます。そこで、コミュニケーション能力に自信をつけたいと思いました。自信をつけるためには様々な人とよりたくさん関わることで身に付くと思い、普段関わりが少ない方々と関わるができるこの企画に参加しました。

2 企画内容

私が応募した企画は「自分に合った福祉活動を探して、一歩踏み出そう～学生と福祉を結ぶ情報サイト musbun を活用した活動」です。大学の1000号館の掲示板に様々な活動情報が載っているように、musbun はボランティアの中でも福祉に関するボランティア情報が載っているサイトです。自分のやりたいことやできる時間に合ったものを探することができます。私はこの musbun のおかげで部活動と両立して活動を行うことができました。musbun で行った活動はさまざまあります。

まず、「介護老人保健施設でのコーヒーレクリエーションの補佐」です。介護老人保健施設とは介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅復帰を目指す公的施設であり、医療

機関と福祉機関の中間的な役割を担っています。おやつ時間に事務の方々がコーヒー豆をその場で挽いてからコーヒーを淹れ、提供します。その補佐を行い、提供後、高齢者の方々とお話しさせていただきました。

2つ目に、「日中一時支援事業所 春風緑での外出時のサポート」です。日中一時支援事業所とは、障がい者等の日中における活動の場を確保し、日常的に介護をしている家族の一時的な休息を目的とした施設です。スタッフは少人数で外出時に全員を見切れないため、そのサポートを行いました。近くの公園まで歩いて行き、一緒に遊びました。

3つ目に「B型就労継続支援事業所 GRANY が出店するマルシェのサポート」です。B型就労継続支援事業所とは、障害や病気などの理由から一般企業で雇用契約を結んで働くことが難しい方に対して就労の機会を提供する施設です。GRANY はグラノーラを製造、販売しています。それを今回は久屋大通の月一マルシェで販売しており、そのサポートを行いました。他にも「障がい者の方々のグループホームの仕事体験」や「生活介護事業所 さふらん生活園の仕事体験」なども行いました。

3 主体的に取り組むことができたこと

今回は最初に紹介した「介護老人保健施設でのコーヒーレクリエーションの補佐」について取り上げます。この活動は日を分けて3回、参加させていただきました。初日はコーヒー豆を挽いて提供することで精一杯になってしまい、あまりたくさんの方と関わることはできませんでした。しかし、回数を追うごとに作業や施設の雰囲気に慣れていき、「次の作業にはあれが必要だから準備をしておこう」と行動できたり、作業が滞っていた時に率先して動いたりすることができました。その過程で事務の方々とコミュニケーションをとって連携したり、作業が早くなった結果その後のレクリエーションでよりたくさん的高齢者の方々とコミュニケーションをとることがで

きたりしました。また、コーヒーレクリエーションはもともと、外部の医療スタッフが行っていましたが、その医療スタッフが都合があり、来られなくなってしまったそうです。高齢者の方だけでなく施設のスタッフにも人気があり、無くなってしまうと悲しまれると考えた事務の方々が仕事の合間にボランティアで再開されたそうです。高齢者を含む施設の方々の楽しみを残すために日々の業務に加えて行っているという事務の方々の考えや主体性がとても学びになりました。

4 気づき、学び、達成感

活動を通して、ただ指示を待っているだけではなく、自分から話しかけて行動したり、笑顔で相槌を打つことで相手が話しやすい雰囲気を作ったりすることがコミュニケーションをとるうえで大切だと学びました。特に高齢者の方を相手にするとき、聞くときは相手の目を見たり手を握ったりして聞き、話すときは相手の耳元で話したり、口を大きく開けて大げさに話したりすると伝わりやすいと学びました。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

私が就職する会社は社員同士のつながりを大切に考えており、同期や先輩方との交流会が月1～2回程度行われています。活動を通してたくさんの方々と関わった経験や学んだことを活かし、社会に出てからも良い人間関係を築いていきたいと思います。



草尾 友一さん

**健康スポーツ科学科
4年**

**小学生等の居場所
づくり活動**

1 この企画に参加した理由

私がこの企画に応募した理由は、子どもと関わることで初心に戻って何か得られるものがあるかもしれないと思ったことと言葉をわかりやすくより細かく伝える力が身に付くと思ったからです。また、将来トレーナーになったとき、子ども達と関わる場面で伝える力が役立つと思ったからです。この企画は、半年で辞める予定でしたが、施設の人や子ども達、環境が良く、1年間続けることにしました。継続してくてくれる子どもと新しく来てくれる子どもがいることで、慣れた環境の中にも新鮮さがあったため、私も継続して行うことができました。

2 企画の内容

この活動は、周辺の地域に暮らす小学生から34歳の人を対象とした「居場所づくり」を目的とし、名古屋市青少年宿泊センターが主催しています。参加者はゲームやスポーツ、おしゃべりなどし、思い思いの時間を過ごします。私は参加者が楽しく過ごせるように企画を考えたり、時には話し相手や遊び相手になったりして活動しました。

3 主体的に取り組むことができたこと

私自身が考えてイベントを企画し、実施したことです。子ども達にポストカードを作ってもらうことがイベント内容でした。多くの子ども達にポストカード作成をしてもらうために、消しゴムハンコを私と施設の人たちで協力して作りました。イベント当日は、たく

さんの子ども達が参加してくれて、人それぞれ個性のあるポストカードを作ってくれました。このように企画を一から1人で作るのは初めての経験だったため、どんなイベントを行えば子ども達が喜んでくれるのかを今まで参加した雰囲気から考えることが1番大変でした。また、子ども達が怪我をしないように考え、大変ながらもとても良いものになり、良い経験をすることができました。

4 気づき、学び、達成感

この企画を通して、小学生でも低学年と高学年では理解力や解釈の仕方に差があるため、説明をするときに、子どもに合わせて細かく教えたり省いて教えたりすることが必要であることに気づきました。また、イベントを一から作り上げて成功した時の達成感はとても強いものでした。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

将来子ども達と触れ合う機会や教えるときには、今回気づいたこと学んだことを活かしていきたいと思います。この企画では、子どもとしか触れ合う機会がなかったため、より幅広い層の人たちと触れ合い自分の経験値を上げて行ければいいなと思います。



名村 拓真さん

**健康スポーツ科学科
4年**

**大府東浦花火大会
運営スタッフ活動**

1 この企画に参加した理由

私は4年生になるまで活動を全くしてきませんでした。そのため、できるだけ多く時間が得られる活動を人間力開発センターに聞いたところ、この活動を教えていただきました。このような理由からこの活動に参加しました。

2 企画の内容

私は大府東浦花火大会の運営スタッフとして参加し、花火大会当日に行う縁日ブースの内容を考えたりしました。

3 主体的に取り組むことができたこと

1つ目は、積極的に企画スタッフとしての活動に参加したことでした。去年も花火大会の企画スタッフとして参加していたのですが、去年は企画スタッフの人数が多かったこともあり、自分のポジションは、人に言われたことをやったり、自分の所属している縁日のブースの一員として活動をする程度でした。しかし、今年は去年とは違い千本引きのリーダーとして活動に参加しました。そのため千本引きの台をどのように作るか、千本引きの紐を何本作るか、より多くの子ども達に楽しんでもらいその上で自分達の仕事がどのようにすれば円滑に進められ、ミスなくこなせるかを考えることにつながりました。

4 気づき、学び、達成感

周りと協力することの大切さを学びました。自分は今までの学校生活で部活と授業にしか

参加していなかったため基本授業の時間も野球部の中でしか過ごしてきませんでした。しかし、この活動に参加して企画スタッフをしていく中で違う学科や学年の人たちとも協力して、花火大会に向けて企画をしてきました。私はこの活動を通して同じ目標を持って取り組むことの楽しさや、意見が合わない時にどうすれば良いかなど集団で行動することの大切さを学ぶことが出来ました。そして最後に、私は人間力総合演習ではとにかく60時間という決められた時間をクリアすれば良いものだと考えていましたが、この花火大会の活動に参加して花火大会のスタッフをすることが徐々に楽しくなり、大学生活の最後にいい思い出を作ることにもつながったと思います。

5 今後どんな活動を通してどんな力を身に付けたいか

今回の活動では、企画を考えても、実際にその場では予定通りには行かないことがあるということを学びました。この経験を活かして、今後社会人になってからは、仕事でも何が起こるか分からないのでいろいろなケースを想定して、準備を怠らないようにして行こうと思います。

演習の成果

先述のアンケート調査結果から、演習を通じて身に付いた（高まった）力として、「主体性」（22.2%）、「実行力」（18.9%）、「状況把握力」（9.2%）が上位 3 位を占めた。また、演習に取り組んでの自身の変化という設問に対しては「踏み出す勇気が得られた」「新しい経験が得られた」「自己を見つめ直すきっかけになった」「成長課題の克服や得意なことの伸長につながった」等の回答がみられた。学生の発表内容とアンケート調査結果を踏まえると、本授業科目が「何かに挑戦してみるきっかけ」となり、学生の主体的行動力を高めるとともにキャリア支援（形成）にも寄与していると言える。

※「演習を通じて身に付いた（高まった）力」の設問は選択式とし、項目には経済産業省が 2006 年に提唱した社会人基礎力（12 の能力要素）を設定した。



人間力総合演習に取り組んでの変化（一部抜粋）

- 先ずはやってみることが大切と思えるようになった。
- 新しい経験ができて嬉しかったです。なにかもっと色んなことに挑戦して色んな人と出会いたいです。
- あまり話したことない人と話すようになった。自ら行動するようになった。ひとつの物事に挑戦する時、すぐに勇気が出るようになった。
- 自分から行動する主体性がすごく身についたなと思います。どんなことでも自分から動くことができるようになったのでございます。ごいためになっていたなと思いました。
- コミュニケーションが苦手だったが、自分から話しかけるということを意識したという変化があった。
- なんでも指示されたものしか取り組んでなかった自分を活動を通して自分から行動し、意欲的にやってみたいことを見つけることができるようになった。
- いいところ悪いところ自己を見つめ直すことが出来るようになった。
- キャリアを考えるキッカケになった。
- 何かに取り組むことに対しての嫌悪感がなくなった。何か頑張って取り組むことによって達成感や感じたことのないことも感じることもあるんだと知ったから。これからは取り組もうと思えるようになり積極的な姿勢になった。
- 自分で何をしたら良いかという判断力が身に付いた。
- 子どもとの関わり方が演習前に比べて上手になった。
- 指導力が上がった。言葉選びがスムーズに出来るようになった
- 私は傾聴力と発信力があると思っているので今回の演習で長所を伸ばすことができたと思いました。
- 自ら進んで動いたり、普段の生活でも周りが見えるようになり、状況把握が以前よりできるようになった。
- 社会人のマナーや報連相をしっかりとできるようになった。

No.	企画名
1	「おおぶ子ども映画祭」での運営活動～映画、映像を通して文学アートの次世代の育成をめざす～
2	大府市内こども体育教室活動
3	「杜の学校」杜チューター活動
4	FC刈谷サポートスタッフ活動
5	FE バスケ教室@しゅくセン運営スタッフ活動
6	あいちウェルネスマルシェ運営活動～県営公園の利用促進を目的とした官民協働イベントの運営活動～
7	イルミネーションで大府を明るく照らそう
8	ウクライナ避難者支援「大交流会」運営スタッフ活動
9	コミュニケーションスキルを学び地域で実践しよう！
10	コミュニケーション演習～社会で役立つコミュニケーション能力 自分の人生を豊かにするステップ～
11	コラビア交流会 2024 運営スタッフ活動
12	ころりん食堂（子ども食堂）でのスタッフ活動
13	スポーツを通じた多世代交流活動～軟式野球連盟におけるゲーム運営活動（審判含む）～
14	スマイルビーチプロジェクト～誰もが自分らしくありのままでいられる社会をめざして～
15	スマホで PR 動画を撮って奥三河（新城）の魅力を発信しよう！
16	まちに感謝の渦を巻き起こせ～大府市・東浦町での青少年健全育成事業スタッフ活動～
17	👏 Good Team をつくってプロジェクトを成功させよう～さくら会（北山地区老人会）お楽しみ会編～
18	安城まちなかホコ天きーぼー市運営活動
19	安城七夕まつりを一緒につくろう！～第 71 回運営活動～
20	一人暮らし高齢者交流会を地域の方と一緒につくろう

No.	企画名
21	延命寺フェス（大府市）運営スタッフ～来場者が楽しめるフェスを運営しよう～
22	学校が苦手な子と親の居場所づくり活動
23	感動を届けよう！～大府東浦花火大会 運営活動～
24	国内外の来場者に楽しんでもらえる運営をしよう！～手羽先サミット® 運営スタッフ活動～
25	災害時に命を守れる人間をめざす！～今の自分で大丈夫？あなたがこれから働く職場の防災事情～
26	子どもが楽しめる縁日ブースを企画・運営しよう！～第16回わくわく祭り～
27	子どもと関わるキャンプリーダー活動
28	子どもの「やってみたい！」を大切に関わろう～おおぶプレーパークスタッフ活動～
29	子ども向けお楽しみコーナーを運営しよう～北山児童老人福祉センターふれあいセンターまつり～
30	子ども向けお楽しみコーナーを企画・運営しよう～神田公民館まつり～
31	子ども向けニュースポーツ体験を企画し、運営し、発信しよう！ in 新城
32	子ども向けブースを企画・運営しよう！～長草公民館ふれあい文化まつりスタッフ活動～
33	子ども食堂、子どものイベント・遊びづくり活動スタッフ～大府市全世代型サロンピース～
34	自分で自分を育てる力を身に付けよう！～目標達成に導くコーチングの手法を活用できるようになろう～
35	自分に合った地域活動・インターンシップを探して、一歩踏み出そう～学生と活動先が気軽につながるボランティアアプリ“musbun” 興味・共感でつながる就活アプリ“キャリシー”を活用した活動～
36	自分の強みや得意を見付け、将来の選択肢を広げよう！～新城市「あまごの産卵床探し活動」編～
37	小学生が楽しめるイベントを考えよう！～共和西小放課後クラブレクリエーションスタッフ活動～
38	消防隊員とともに活動！外国人のための防災講座運営サポート
39	障がい者スポーツを通じて共生社会を考える～第31回中部障がい者水泳選手権大会運営活動～
40	障害のある人もない人も共に楽しもう～大府市福祉・健康フェア～

No.	企画名
41	食べて、遊び、地域と繋がる～子ども食堂での子どもの遊びづくり活動スタッフ（ふれあいの居場所みどり）～
42	新城市での自然体験学習を通じて地域社会課題と自分のキャリアを考える～SHINSHIRO スタディツアー 川・山編～
43	新城市の魅力を体感し、発信しよう～新城ロードレース編～
44	青少年が気軽に立ち寄れる「居場所づくり」活動～まるっとしゅくセン～
45	全世代型サロン タマキッズ（子ども食堂）でのスタッフ活動
46	大府ふれあい食堂（子ども食堂）でのスタッフ活動
47	大府市 学校が苦手な子の居場所づくり活動～憩の郷「ライムぷらす」での活動～
48	大府市少年少女発明クラブでの小学生への指導活動
49	市民の健康づくりに取り組もう～大府シティ健康ウォーキング大会～
50	大府市福祉健康フェア 企画ブース立案・運営活動
51	第 16 回コラビアまつり 運営スタッフ活動
52	地域と熱く繋がろう～大府夏まつり活動 2024 ～
53	地域の子どもマルシェに自分たちで考えたブースを出店しよう～MORIOKA まるちえ～
54	地域の方と共に楽しむつつじまつり「当日スタッフ」募集
55	中学生・高校生とスポーツをして交流しよう！
56	中山間地域での活動を通じてキャリアを考える～下呂市・馬瀬ワークキャンプ～
57	仲間と共に地域の活性化に取り組もう～合宿型社会貢献活動「ワークキャンプ」～
58	保育活動に学ぶ（至学館大学附属幼稚園での活動）
59	陸上競技大会の企画・運営活動～アイデアで大会を盛り上げよう～(R6)

No.	企画名
1	「シニアの健康づくり教室」活動
2	「やさしい日本語」で国際交流海外の大学生(日本語履修者)と日本語で会話をしよう！
3	「子ども体育塾」における運動指導
4	「至学館大学子どもキャンプ教室 2024」の運営スタッフ
5	「第2回自然の営みみんな DE 田んぼ」に参加して、子どもと一緒に米を作ろう
6	2025 年 共和西放課後クラブ 春休み体力向上運動遊び
7	エアロビック大会等運営活動
8	こどもと文学をつなぐ「第4回絵本フェス」の運営支援活動
9	こどもの学習支援事業 学習サポーター
10	タイフェスティバル in 名古屋 2024 でセパタクロを PR 「ステージショー & ミニ体験コーナーの運営支援」
11	ティーボール大会運営補助
12	バリアフリーコンサート運営補助
13	部活動の帯同活動（栄養サポート）
14	プラスチックゴミをTシャツへ！他大学の学生といっしょに活動しよう！プロギングで海と街をきれいにしよう！
15	ラブリッジ名古屋サポートスタッフ募集
16	愛知県警察からの挑戦状～疑似捜査体験型 Goup Work ～
17	外国にルーツを持つ子どものサポート WKY(地域多文化ネット) 学習支援ボランティア
18	刈谷市美術館ワークショップ
19	広島県庄原市短期留学プログラム
20	高齢者対象の健康づくり教室「頭とからだの健康づくり講座」の運営・指導

No.	企画名
21	子どもたちとの手紙によるふれあい
22	少年少女を対象とした柔道大会のスタッフ活動
23	森の自然歩道の整備～子どもも大人も自然について学び、森林浴ができる森をつくろう～
24	人間力恋愛講座
25	赤ちゃんと触れ合おう！！－無条件で愛される存在－
26	多文化・多民族・他宗教のマレーシアで学ぶ！マレーシア海外短期研修
27	大府市内で環境美化活動を行おう～クリーンアップ・ザ・ワールド in 大府の一環～
28	第 15 回至学館大学創作ダンス部舞踊公演 運営スタッフ
29	第 22 回ニュースポーツフェスタ 2024 の運営補助（企画）
30	第 23 回 人形劇団もぐら「こどもげきじょう」運営支援活動
31	第 2 回 寺本明日香カップ
32	第 8 回大府みんなでプラネタリウムを開催し、地域の方と星空を共有しよう
33	地域社会と自然をつなぐ「セレクトナフェスタ 2024」の運営支援活動
34	茶の手摘みを通して考える SDGs：「お買い得さ」vs エシカル消費
35	仲間をまもり隊
36	日常からはなれ 自分をみつめよう！～中津川市・加子母スタディツアー～
37	農業（マコモ栽培）を通して地域を活性化しよう
38	北山公民館ふれあいまつりで、子どもたちと楽しもう
39	北山子どもチャレンジ大会で、子どもたちと楽しもう
40	木育キャラバン運営スタッフ

人間力開発センターの紹介

学生の**自己成長**に向けた
気づきと行動を
サポートしています。



人間力総合演習

「自己を育てる人間の育成」(自己形成力)をねらいとし、学生が、自分の考えをもち、自分で課題克服など目標を設定し、主体的に多様な教育プログラムへ参加することで、自身の成長につなげることをめざしています。

カリキュラム化した講義・演習の運用

- ✓ 本授業科目のねらいを確認し、自己の目標や課題を見付け、達成・克服に向けて挑戦する実行力を培うための講義を全学年において行っています。
- ✓ 各活動企画(人間力開発センター企画、教員企画、自己企画)の管理を行っています。人間力開発センター企画については、プログラムの構築・実施を行っています。

個別の学生支援

- ✓ 学生一人ひとりのキャリア(将来)を踏まえ、達成したい目標や克服したい課題について、「自分の理想」の実現に向けた相談を行っています。



コーチングの手法を取り入れた面談を通じて、学生自身が気づきを得て、行動に移せるようにサポートします！

#1on1形式
#コーチング
#全学生利用可



令和6年度
人間力総合演習の学び
令和7年3月3日 発行

至学館大学人間力開発センター

〒474-8651 愛知県大府市横根町名高山55（1000号館2階121B）

Tel(ダイヤルイン)：0562-46-1292（内線番号：132）

メール：human@sgk.ac.jp



@SGK_HUMAN_OFFICIAL

◀公式Instagramで人間力総合演習の様子
を配信しています！ぜひ、ご覧ください。